

# evo 16

24in/24out Audio Interface



**User Manual 1.1**

# WELCOME

EVO 16をご購入頂き、ありがとうございます。

本機は、オーディオやレコーディング分野のテクニカルな部分に煩わされることなく、クリエイターが制作に没頭できるようにデザインいたしました。

EVO 16で貴方のクリエイティブな試みをお楽しみください。

**Work smarter not harder.**



EVO makes recording easy

**01 安全にご使用頂くための注意**

**02 インストール/セットアップ**

macOS  
windows

**03 ARCの登録方法**

**04 ハードウェアの特徴**

初めのセットアップ  
マイクプリとラインレベル入力  
スマートゲイン・モード  
入力ミュート  
ステレオリンク  
ファンタム電源 (48V)  
インストルメント入力  
ヘッドフォン出力  
ライン出力  
ファンクションボタン  
トークバック  
オプティカル入出力  
ワードクロック  
メータリング  
ファクトリーリセット

**06 EVO 16をラックマウントする**

**07 アプリケーションソフトの特徴**

EVOソフトウェアミキサー  
マイクプリアンプコントロール  
EVO設定の保存と開封  
スタンドアローンの使用法  
ループバック機能  
ループバックチャンネルのレコーディング/ストリーミング

**08 ファームウェアのアップデート**

**09 スペシフィケーション**

**10 安全上のご注意**

**11 品質保証に関して**

# 安全にご使用頂くための注意



付属のUSBケーブルからEVO 16に給電する前に、マニュアル中のインストラクションや注意点をよくお読みください。

本機は高電圧で動作はしませんが、電気ショックや火災が起きないように安全な使用方法に忠実に従ってください。

故障と思われるような症状が発生しても、本体を開けないでください。  
その際はまず弊社のaudientのサポート窓口: [audient@allaccess.co.jp](mailto:audient@allaccess.co.jp)にコンタクトしてください。

01. マニュアルをよく読んでください。
02. マニュアルを保管しましょう。
03. 『注意や警告』を守りましょう。
04. インストラクションには従ってください。
05. 水の近くや湿気の多い場所で使用しないでください。
06. クリーニングは乾いた布だけ使用してください。
07. ヒーター、ストーブやアンプなど高温を発生する場所や機材の上で使用しないでください。
08. 本機に接続されているケーブル類にご注意ください。
09. 本機と使用するアクセサリ等は、メーカーが認可したものを使用してください。
10. 近くで雷が発生していたり、長い期間本機を使用しない時は、コンピューターの電源をお切りください。本機とコンピューターとの接続ケーブルも外してください。
11. 水分がかかったり、故障だと思われる時に本機を開けないでください。  
製品の修理は認可されたサービス機関でのみ修理可能です。  
その際はまずサポート: [audient@allaccess.co.jp](mailto:audient@allaccess.co.jp)にコンタクトしてください。



We, EVO Audient, Aspect House, Herriard, Hampshire, RG25 2PN, UK, 01256 381944, declare under our sole responsibility that the product EVO 16 complies with Part 15 of FCC Rules.

Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference,
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation



We, EVO Audient, declare that the product, the EVO 16, to which this declaration relates, is in material conformity with the appropriate CE standards and directives for an audio product designed for consumer use.



We, EVO Audient, declare that the product, the EVO 16, to which this declaration relates, is in material conformity with the appropriate UKCA standards and directives for an audio product designed for consumer use.



Audient Ltd has conformed where applicable, to the European Union's Directive EN 63000:2018 on Restrictions of Hazardous Substances (RoHS) as well as the following sections of California law which refer to RoHS, namely sections 25214.10, 25214.10.2, and 58012, Health and Safety Code; Section 42475.2, Public Resources



Under an environment with electrostatic discharge, the device may cease to output sound (EUT could not operate properly). This requires the user reset the device by unplugging & re-connecting to host computer.

As a device that provides power to other equipment power management features are inappropriate for this product.

# インストール/セットアップ

EVO 16はmacOSでの使用時にはドライバー無しでも動作します。

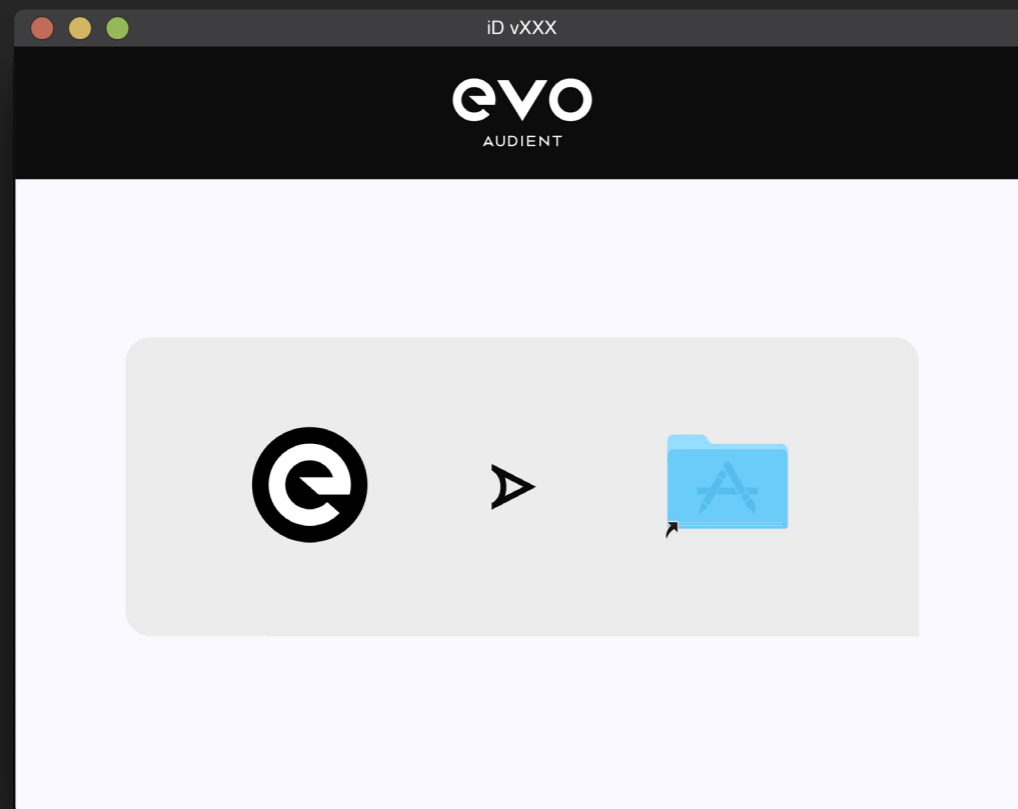
しかし、ルーティングやLoopbackの使用、ファームウェアのアップデート用にはEVOミキサーアプリのインストールをお勧めします。

[EVO 16 downloads page](#) ページからアプリをダウンロードし、  
図のように.dmg file をドラッグ&ドロップします。

EVO16を電源に接続してからMacのUSBポートに接続します。

接続するMacにUSB-Cポートがない場合は、アダプターか dongle が必要です。

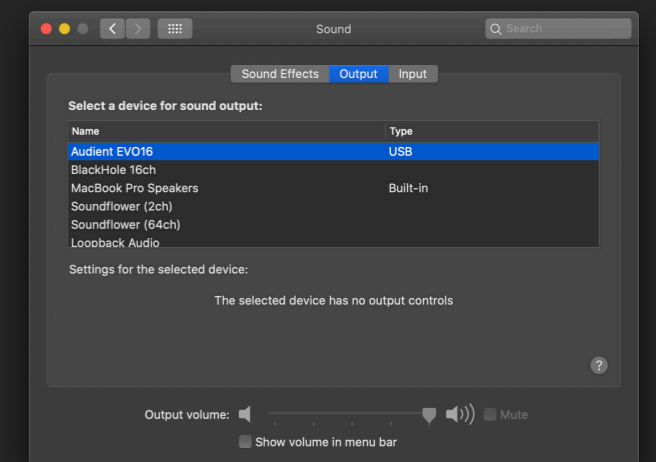
接続後に**システム環境設定**を開き、EVO 16をメイン入出力に選びます。



System Preferences > Sound



Select EVO 16 as input / output

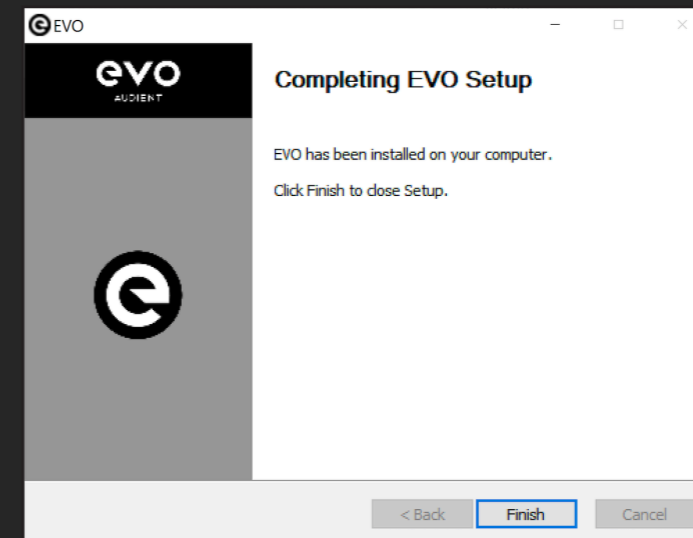
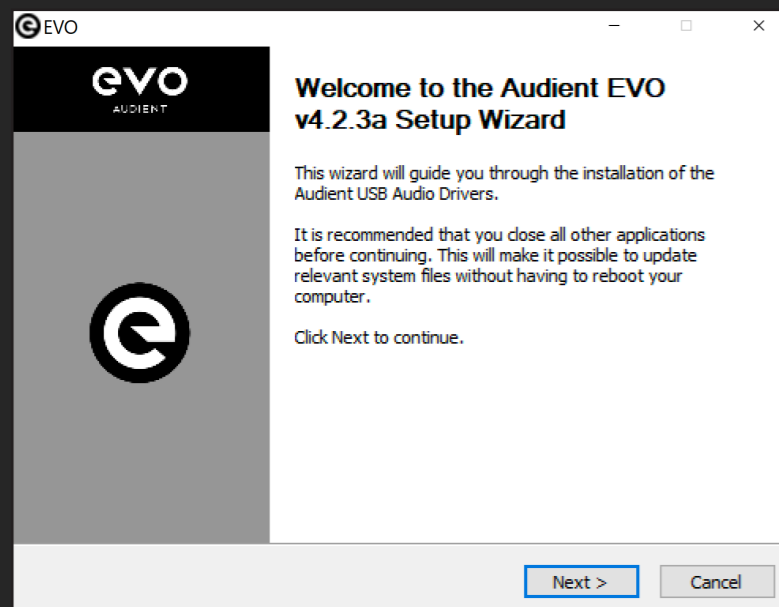


# インストール/セットアップ

EVO 16をWindows OSで使用する際はドライバーソフトが必要です。  
EVO 16の[evo.audio/evo16/downloads](https://www.audient.com/evo16/downloads)からダウンロードして下さい。

ダウンロード完了後.exe fileを起動し、インストールを開始します。  
スクリーンの表示に従ってインストールを完了してください。

このプロセスには少々時間が掛かるかもしれません。



EVO 16をサウンドデバイスとして設定するには、  
**Control Panel→Hardware&Sound→Sound**の順に進み、  
**Playback (再生) タブ**を選びます。

リストから**EVO 16 Main Output 1+2**をクリック&選択します。

サンプルレート、バッファサイズなどのアドバンス設定は、  
後のセクションをご覧ください。



## AUDIENT ARCの登録方法

# ARC

EVO16には、レコーディングに必要なプロフェッショナルソフトやサービスがバンドルされています。

arc.audient.comにアクセスして、お使いのデバイスを登録します。

登録が完了すると確認メールが届きます（届かない場合はspamや他のフォルダも確認してください）。アカウントが認証されたら、シリアルナンバーと本体の下部にある4桁のPINコードを入力してEVO16の登録を行います。

### 【製品の登録ページ】

- Name=名前
- Email=メールアドレス
- Password=パスワード
- Password confirmation=パスワード（再入力）
- Product=登録する製品名を選択
- Serial number=シリアル番号/EVO 16のシリアルナンバーと4デジットPINが本体の底に貼られています。

登録したメールアドレスに、「Audient ARC - Email Verification」との認証メールが送られてきます。メール内の「Verify Email」またはリンクをクリックすると、アカウントが認証されます。

ARCの登録が完了すると、各々のパワフルなツールの登録画面に移動できます。

### 注意：

- 日本語ページはございません。
- 入手/使用開始にはアプリ各社のユーザー登録が必要です。
- 全てのプレゼント製品の内容（インストールや使用方法）に関しては、弊社のサポート対象ではありません。ご了承ください。



REGISTRATION

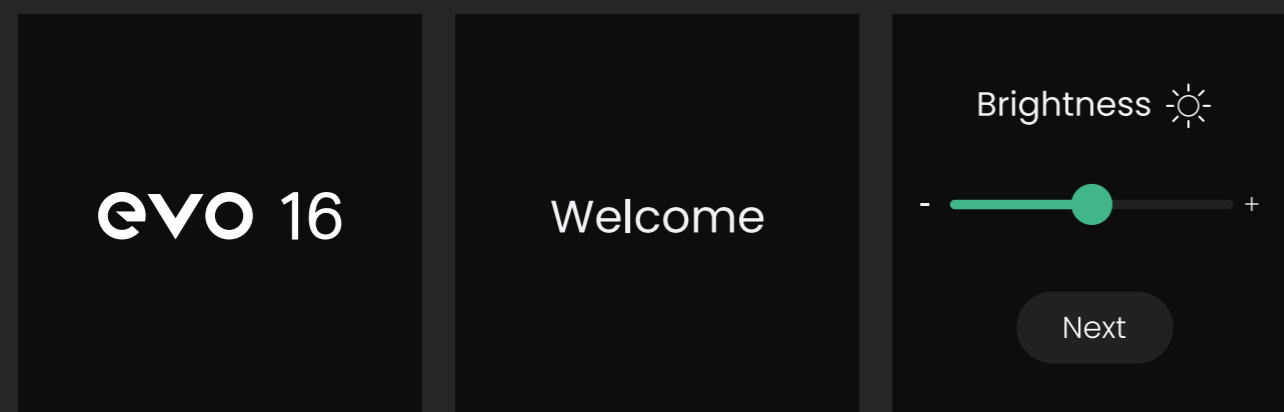
# ハードウェアの特徴

## 初めのセットアップ

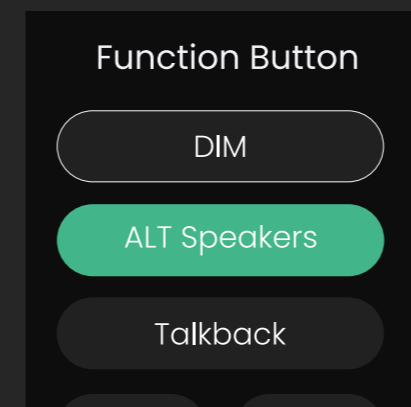
Motion User Interface (モーション・ユーザー・インターフェース) は、オーディオインターフェースを使いこなす手法を一新するコントロールシステムです。高いレゾリューションのカラースクリーンが必要なインフォメーションを即座に表示し、さらに本機の簡単な操作性は制作に没入させてくれます。

EVO 16の電源を入れると、Motion UI (モーション・ユーザー・インターフェース) が、あなたの好みのセットアップに、セットアップ手順を誘導してくれます。

まず、ハードのLEDやリングの明るさをスタジオ環境に合わせて調整できます。コントロールホイールで調整し、設定を保存して'Next'に進みます。



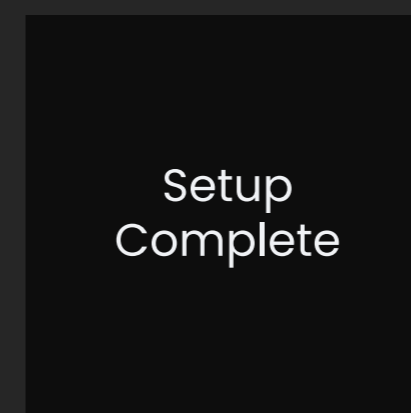
次に、フロントパネルにあるFボタンにモニターソースを選びアサインします。:



- DIM** - 設定した出力レベルに下げます。
- ALT Speakers** - メインとオルタネイティブスピーカー出力を切り替えます。
- Talkback** - トークバックのオン/オフ
- Mono** - モニター出力をモノ信号に変更します。

ファンクションボタン (F-ボタン) の詳しい説明は、後のセクションをご覧ください。

'Finish'を選択するとセットアップが完了します。





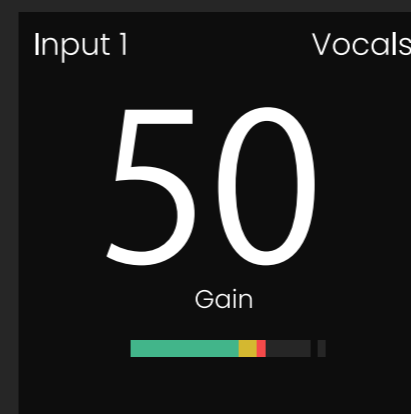
## マイクプリとラインレベル入力

EVO 16は、高性能なEVOマイクプリを8基リアパネルに（コンボジャック仕様の入力）備えています。

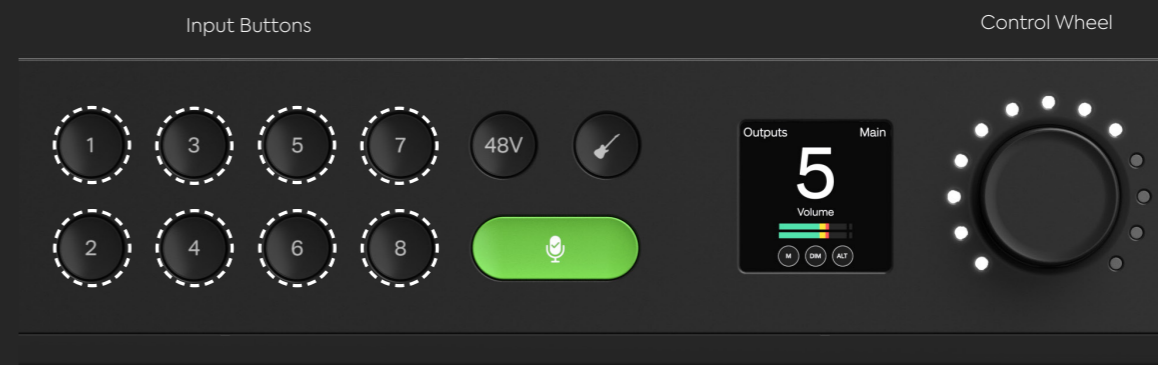


EVO 16のプリアンプは、最もレコーディングに適したレベルを設定できるように、入力信号を8dBカット/50dBブーストすることができます。

EVO 16のフロントパネルにある入力ボタンを押すと、入力のステータススクリーンが表示されます。このステータススクリーンは、入力#、EVOソフトウェアミキサーで決めたチャンネル名、dB表示のゲインセッティング、チャンネルレベルメーターを表示します。



入力を選択されると、ハードウェアがチャンネルゲイン調整（コントロールホイール）、チャンネルミュート、ファンタム電源、ギター&ベースの1+2チャンネルをコントロールします。

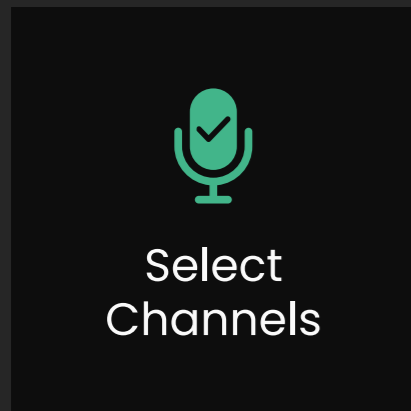


## スマートゲイン・モード

スマートゲインは本機のパワフルな特徴で、完璧なゲインレベルを早く&簡単に設定してくれます。

まず、Smartgainボタンを押し、ゲイン設定したいチャンネルを選びます。

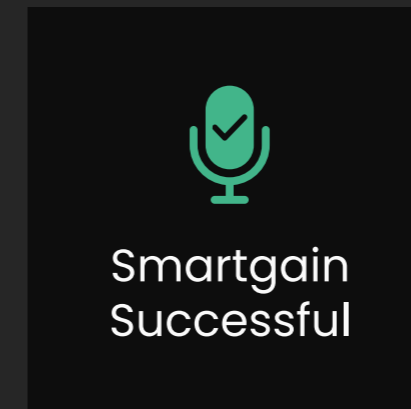
この設定はチャンネルボタンを選んで押すか、Smartgainボタンを長押しして、全8チャンネルを選択するか2つの方法が選べます。



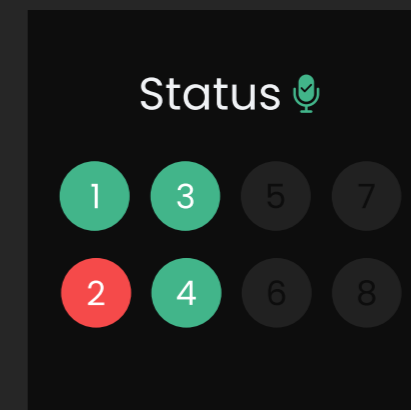
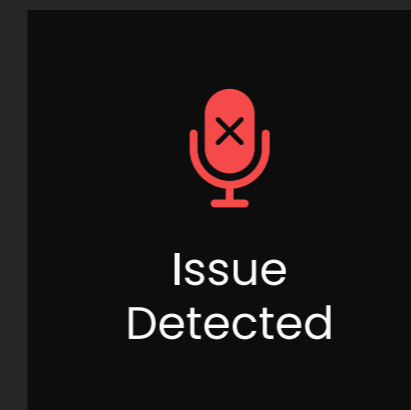
チャンネルを選択してからSmartgainボタンを再度押すと、Smartgain Listeningスクリーンに変わります。この状態で信号が入力されるとSmartgainが信号の分析を始めます。



選択したチャンネルのゲイン設定が無事成功すると、'Smartgain Successful'のメッセージがスクリーンに表示され、レコーディングがスタートできます。



何らかの理由でスマートゲインが正常動作しない時は、Issue Detectedスクリーンが表示されます。図のように各チャンネルのステータスも表示されます。



- Green - 成功
- Red - 失敗
- Grey - 選択されていないチャンネル

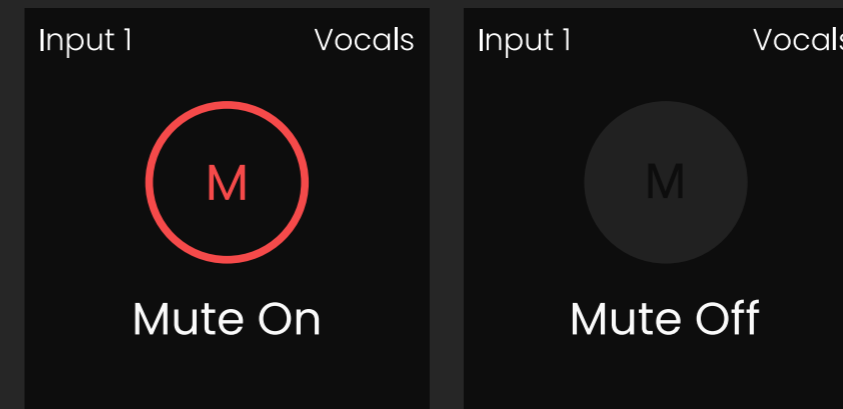
Smartgainに失敗すると、失敗した「チャンネルの選択」画面に戻ります。  
チャンネルは自動的に選択されていますので、Smartgainボタンを押すだけで再試行  
できます。

再設定するチャンネルでは、マイクケーブル、ファンタム電源、マイクポジション等もチェ  
ックして下さい。その後、再試行することをお勧めします。

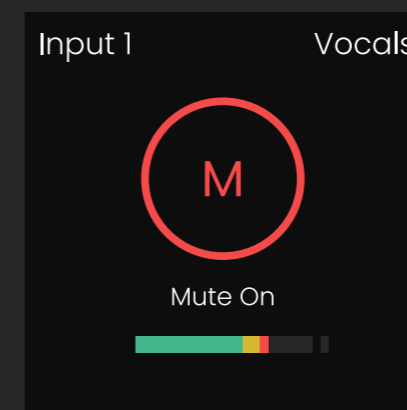
Note: グリーンチャンネルは設定が成功しているため、再試行の必要はありません。

## 入力ミュート

チャンネルボタンを長押しすると、ミュート機能が働きチャンネルをミュートします。  
表示は図のように自動的に切り替わり、チャンネルボタンは点滅を始めます。



チャンネルがミュートされると、ゲインレベルはミュートアイコンに切り替わります。  
このミュートの解除にはチャンネルボタンを再び長押しします。



## ステレオリンク



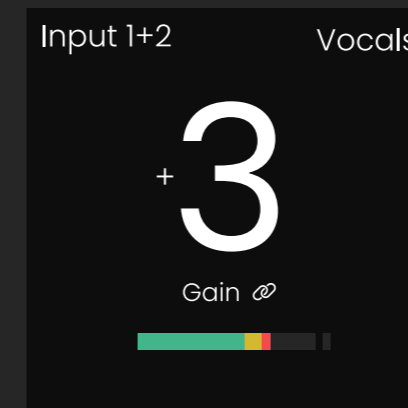
チャンネル1+2、3+4、5+6、7+8のように全てのチャンネルはステレオリンクが可能です。リンクされると両入力のゲインを同レベルにマッチすることができます。

この設定は、ピアノやギターなどの2xマイクのステレオ録音や、シンセやDJデッキのステレオ信号に使用できます。

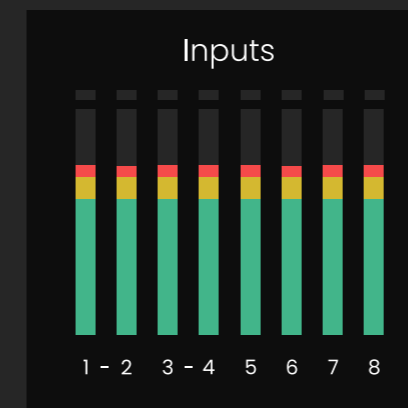
この設定を行う際、例えば3+4ボタンを同時に押すと、ソフトウェアミキサー内の両チャンネルがステレオに認識され切り替わります。

2チャンネルがリンクされている状態で、その内の1チャンネルを選択すると、自動的にリンクされているチャンネルも選択されます。

2チャンネルがリンクされていると、Linkアイコンがステータススクリーンに表れ、入力名もアップデートされます。



メータースクリーンではチャンネル間にハイフンが追加されます。



## ファンタム電源 (48V)

コンデンサーマイクの使用にはファンタム電源が必要です。  
+48Vの電源がXLRケーブル経由でマイクロフォンに供給されます。

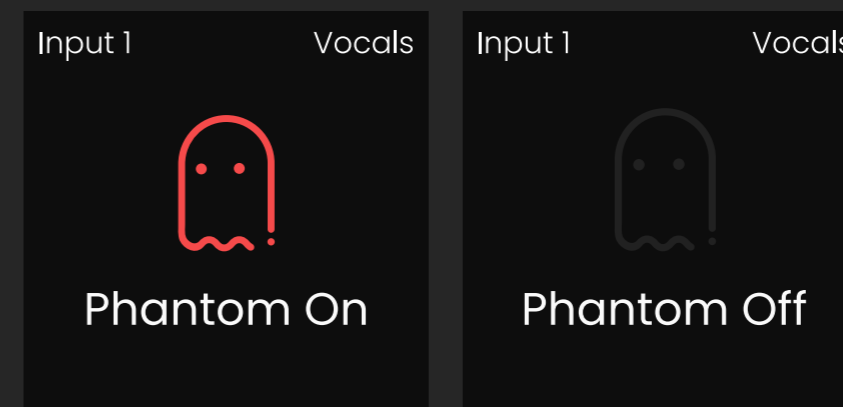
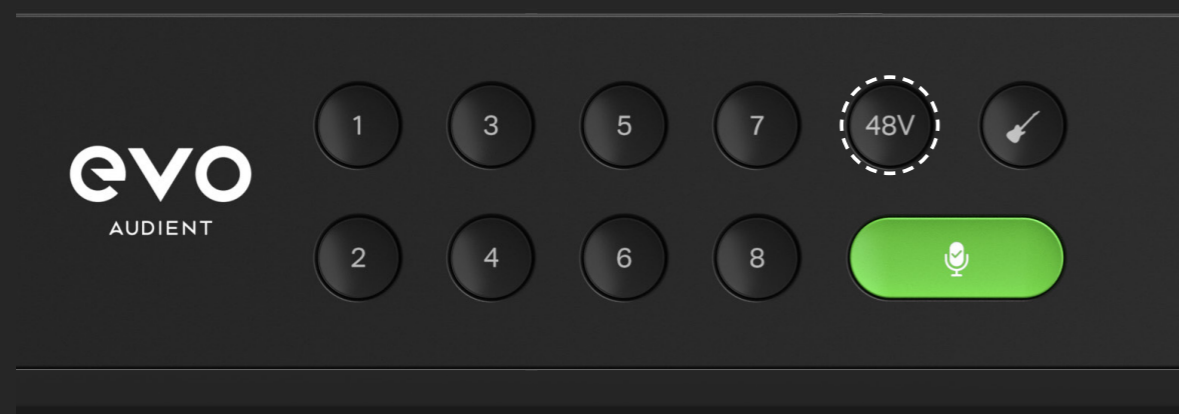
稀に、ファンタム電源を必要としないマイクロフォンにダメージ与える場合がありますので、接続前にマイクの説明書をよく読んでください。EVO 16でのファンタム電源の投入は、チャンネルを選択して48Vボタンを押すだけで完了します。

このファンタム電源がオンのチャンネルは、LED がレッドに点灯します。

ファンタム電源はチャンネル毎にオン/オフできます。  
ファンタム電源が使われていないチャンネルの48Vボタンは点灯しません。

48Vをオフにし、改めてボタンを押すとトグルスクリーンが表示されます。

ファンタム電源のオン/オフを繰り返すと、EVO 16はスピーカーやヘッドフォンからノイズが出ないように、自動的に入力をミュートします。





## インストゥルメント入力

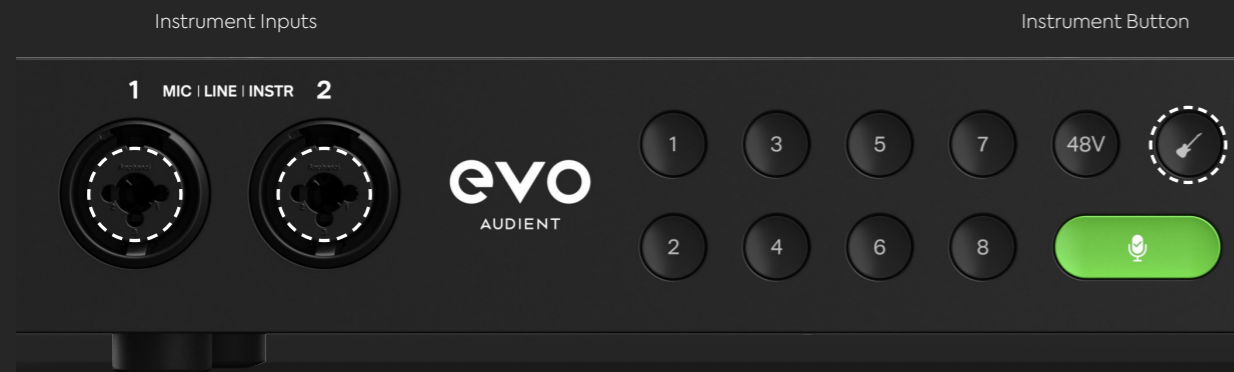


ギターやベースをダイレクトに接続できる入力を2系統装備しています。

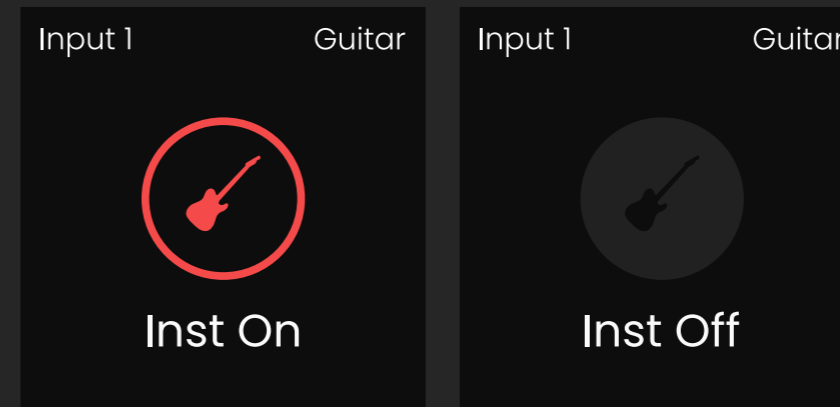
インストゥルメント入力は、DIダイレクト・インジェクション)として知られ、インストゥルメントらしい良いトーンが得られるハイインピーダンス入力です。

フロントサイドにあるDIポートは、ギターアンプ入力同様のアンバランス (TS) 1/4"ジャックです。

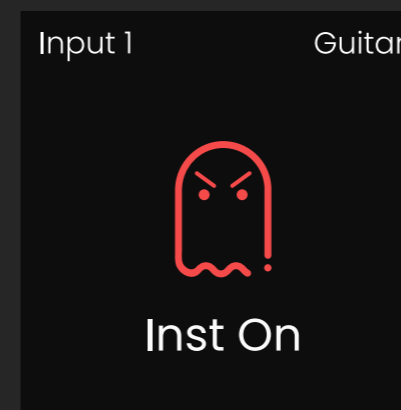
デフォルト設定では、これらの入力はライン&マイクレベルとして使用されますが、インストゥレベルに変更することも可能です。



チャンネル1又は2を選択してからインストボタンを押します。  
ボタンは点灯し、ポップアップスクリーンが一時的に表示されます。  
インストゥルメントモードは再度ボタンを押して解除できます。



インストゥルメント入力がアクティブで、チャンネル1+2のファンタム電源を入れようとしても動作しません。これらのチャンネルに両機能を同時に設定することはできません。



インストゥルメント入力としてゲイン設定したい場合は、Mic/Line同様に設定するか、スマートゲインで入力ゲインを設定します。

**Remember:** インストゥルメント入力を介してレコーディングを終了した後は、マイク&ラインレベルの入力に戻します。この方法は、使用したインストゥルメントチャンネルボタンを押し、その後インストゥルメントボタンを押します。これでDI回路がオフになり、マイク&ラインレベルのデバイスが使用できます。

# アナログ出力

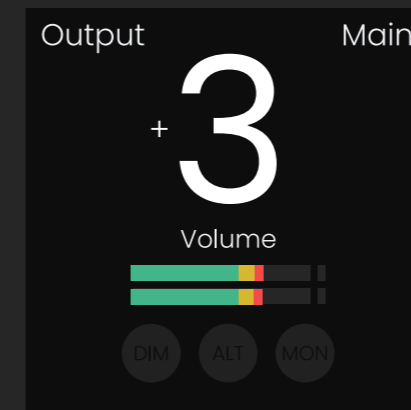
## ヘッドフォン出力

EVO 16は、それぞれコントロールが可能な2系統のヘッドフォン出力を備えています。

Headphone 1または2のボタンを押して、各出力のボリュームが調整できます。出力のボリュームはボタンを押し、コントロールホイールを回して行います。メーターリングが点灯してそのレベルを表示します。



ハードウェアの出力ボタンのいずれかを押すと、出力ステータス画面が表示されます。入力ステータス画面と同様に、いくつかの重要な違いがありますが、出力ステータス画面には、出力名、音量レベル、ステレオメーター、および機能ステータスが表示されます。出力を選択すると、コントロールホイールはその出力の音量を0~100で制御します。



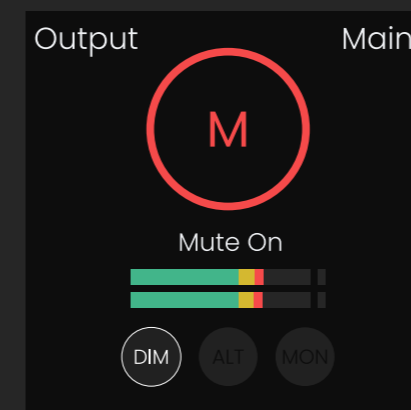
## ライン出力

EVO 16にはリアパネルに8系統のラインレベル出力があります。

デフォルト設定では、フロントパネルのSpeakerボタンを押し、コントロールホイールを回すとライン出力1+2のボリュームが変わります。他のライン出力はEVOソフトウェアミキサーから調整できます。



素早く出力をミュートしたい場合は、図のMuteスクリーンが現れるまでチャンネルボタンを長押しします。(チャンネルボタンは点滅します。)チャンネルがミュートされると、ボリュームレベルはMuteアイコンに入れ替わります。表示は出力ボタンを長押しして、ミュートが解除されるまで変わりません。



## ファンクションボタン

本機には、EVOソフトウェアミキサーからアクセスできる、モニタリングやコミュニケーション用のファンクションボタンがフロントパネルにあります。この機能はモニタリングをボタン1つで切り替えることができます。ファンクションボタンについては、このマニュアルのソフトウェアミキサーまたはMotion UIセッティングをご覧ください。

次に挙げる機能がアサインできます。:

### Mono - モノ

ステレオ出力をモノ再生できます。  
ミックスがモノ再生に適しているかが確認できます。

### ALT - オルタナティブ

接続してある第2のスピーカーセットにモニターパスを素早く切り替えます。  
システムパネルでALTモニターの出力がセットできます。

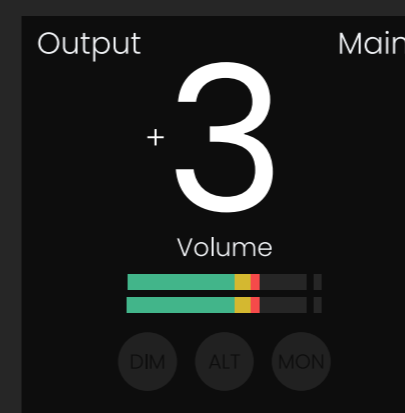
### Dim - ディム

減衰レベルのプリセット設定が可能です。

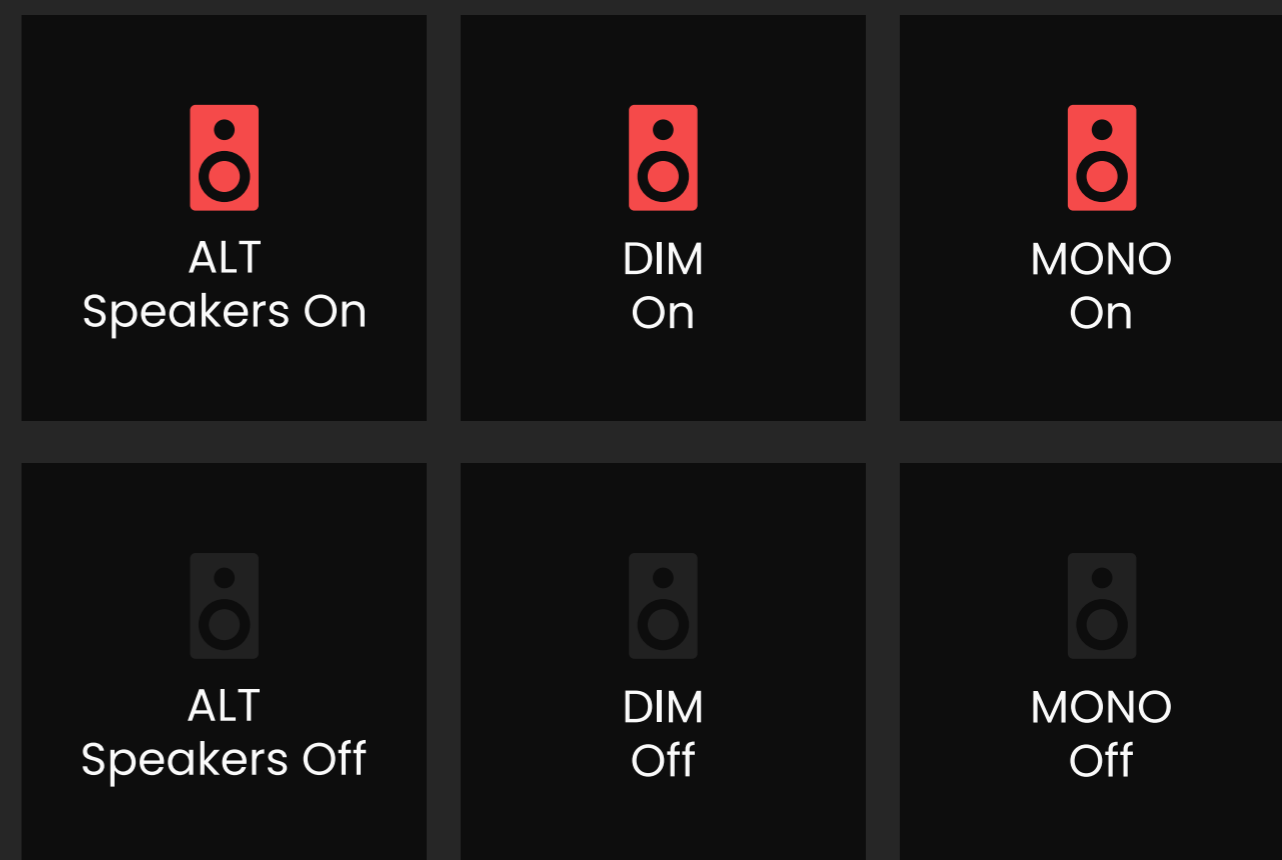
### TB (Talkback) - トークバック

トークバックがオン/オフできます。

メインスピーカー出力が選択されると、Dim、ALT、Monoの出力機能が表示で確認できます。



これらの機能を切り替えると、ディスプレイに図のようなステータスが表示されます。

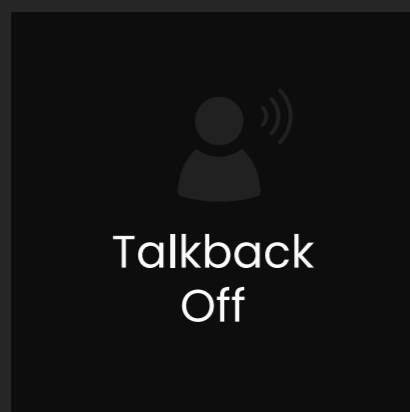
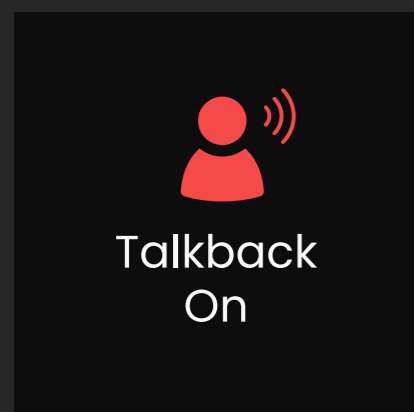




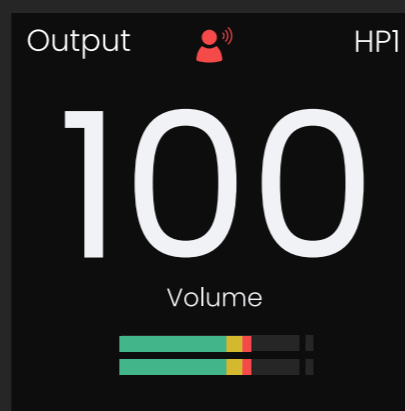
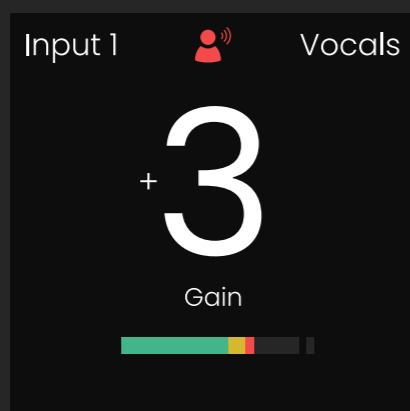
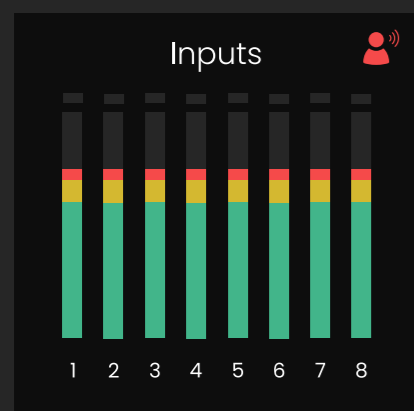
## トークバック

ミュージシャンのヘッドフォンモニターと交信するために、ファンクションボタンはトークバックにも使用できます。設定はEVOミキサーアプリのセッティングパネルで行います。

トークバックが、ファンクションボタンまたはミキサーアプリからアクセスされると、図のような表示が短く表れます。



別のスクリーンに切り替えても図のようにトークバックアイコンは確認できます。



## オプティカル入出力

EVO 16には、2系統のオプティカルのデジタル入出力が搭載されています。各デジタル端子は ADAT (最大 8ch) と SPDIF (2ch) どちらにでも使用可能です。切り替えは「EVOソフトウェアミキサー」から行います。両フォーマットとも最大サンプルレートは96kHzですが、ADATは88.2kHz/96kHzの使用では半分の4チャンネルに限定されます。



S/PDIFモードでは、最高サンプリングレート96kHz、最大4チャンネルのオーディオ入出力が可能です。

ADATモードでは、Audient ASP800のような外部プリアンプを接続して、最大24入力のレコーディングが可能です。ADAT出力はHearback systemのようなヘッドフォン分配システムまたは8チャンネルDAC接続可能です。

88.2kHzまたは96kHzのハイサンプルレートでは、ADATプロトコルの限界から入出力が8チャンネルに限定されます。

## ワードクロック出力

EVO 16は、複数のデジタル機器のクロックを統制するために、便利なBNC出力端子を装備しています。

この出力からは、本機動作中のサンプルレート(44.1、48、88.2、96kHz) と同じクロック信号が出力されます。内部と外部クロック、どちらの使用でも同じクロックが出力されます。

## クロック設定

外部デジタル機器と接続する際は、それらが全てクロックがシンク状態になっていることが重要です。そのために1台をクロックマスターに設定する必要があります。クロックマスターは1台のみ存在し、その他の機器はマスターに従ってスレーブとして同期します。

マスタークロックは、オプティカル端子またはBNC端子から送られます。クロック信号は“機器の出力→他の機器の入力”の一方向のみで送られます。

## マスタークロックの選択

デジタルセットアップの場合、マスタークロックに最も適しているのは、オーディオ・インターフェースのようにコンピューターに直接接続されているデバイスです。この場合、DAWソフトウェアを開くとインターフェースのクロックがプロジェクトにマッチングされます。その後、スレーブ機をマスターのサンプルレートに合わせます。(接続機器によっては異なる場合があります。)



## EVO 16をマスタークロックとして使用する

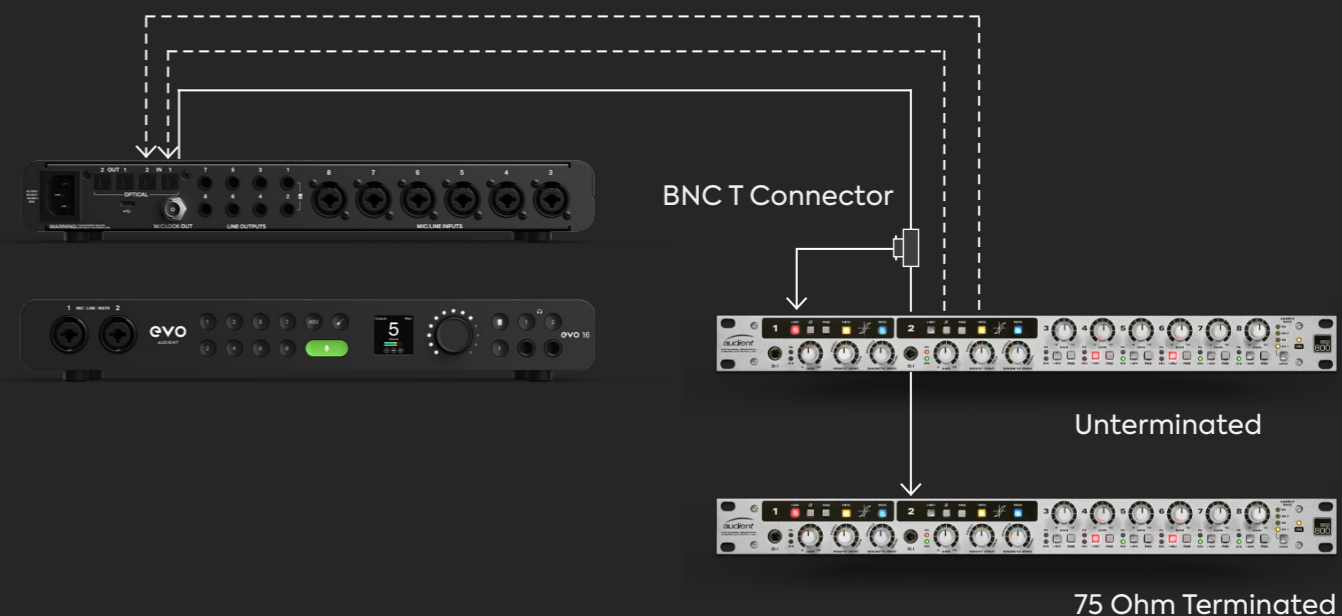
EVO 16をマスターに設定した場合、クロックは、オプティカル端子またはBNC端子を通して送られます。

複数の機器を接続する場合には、BNC端子を使用する事を推奨します。

T型コネクタを使用して、全ての機器をデジチェーン接続すると便利です。

デジチェーン接続する場合、クロック信号の反射を防ぐため、最後の機器が75Ωでターミネートされていることが必須です。

## デジチェーンBNC接続



Key: Optical TOSlink Cable



BNC Word Clock Cable



## 単一BNC接続



## スレーブクロックを受ける

EVO 16は外部マスタークロックからのスレーブとして、オプティカル入力でクロック信号を受けることもできます。オプティカル端子のみが外部クロックを受けます。

次にミキサーアプリの中でクロックソースを選択します。ADATまたはS/PDIFの接続外部デバイスのフォーマットも設定します。

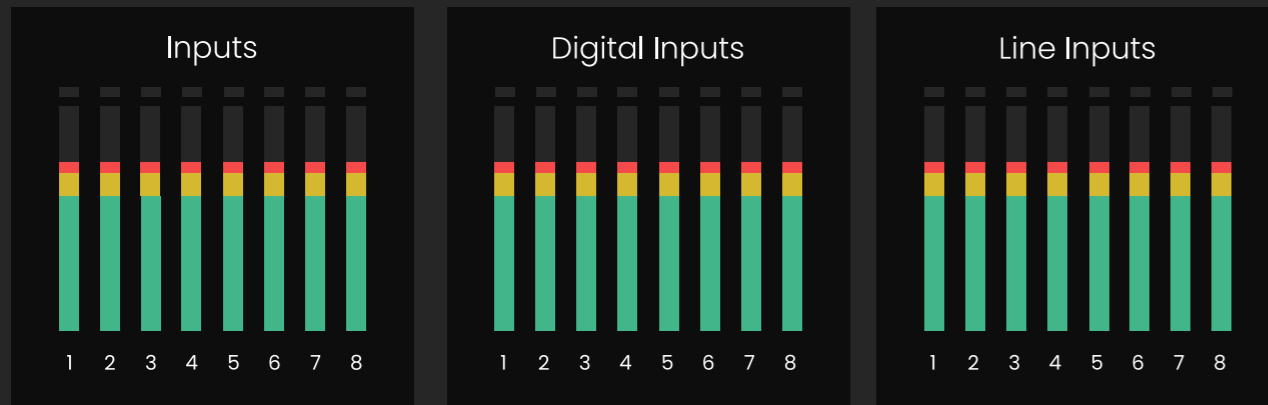
## EVO 16 clocked via the optical port



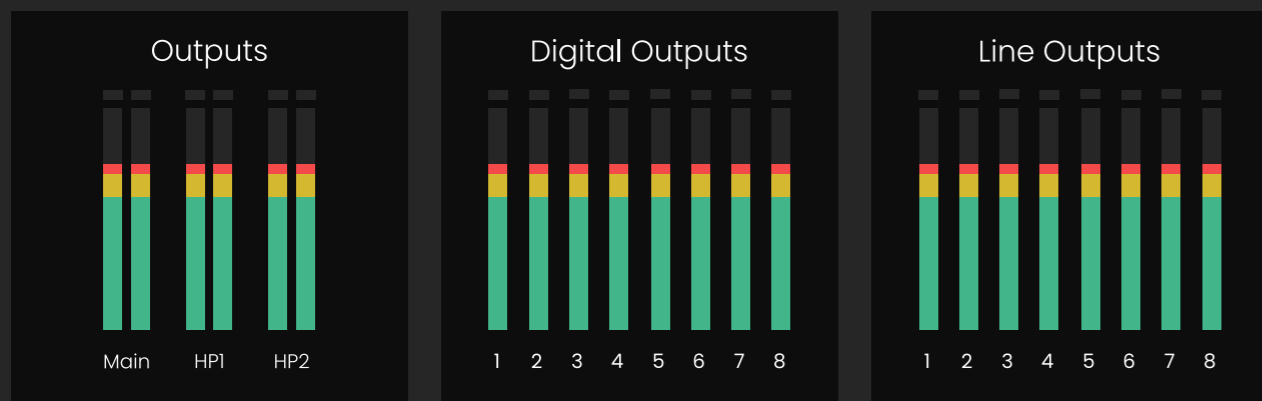
## メータリング

本機のセッティング変更やボタン操作が5秒以上ない場合、スクリーンは入力または出力メータに戻ります。（入力または出力の表示は、最後のボタン操作によって決まります。）

入力メータは、レコーディング中の全8チャンネルのレベルを同時に表示します。デジタル入力を使用している場合は、コントロールホイールをタップして順にモニターすることができます。



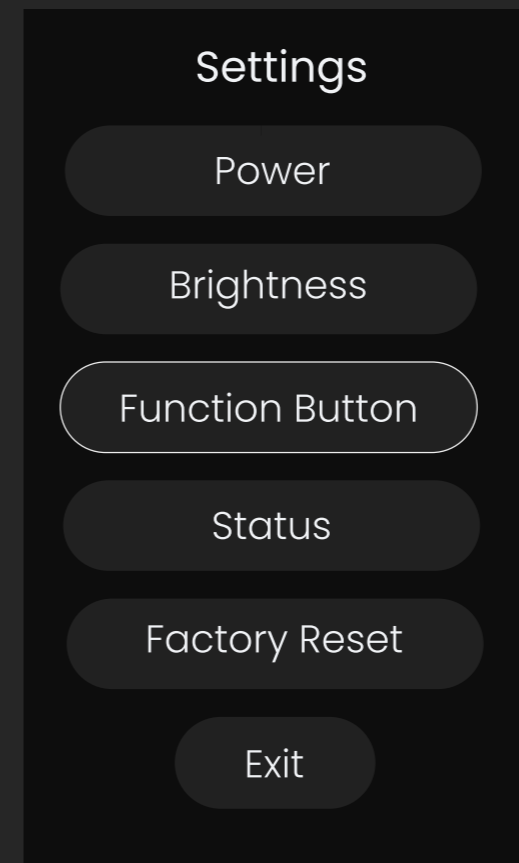
出力メータはメインスピーカーやヘッドフォンへの出力レベルを表示します。入力メータと同様に、コントロールホイールをタップして、ライン出力やデジタル出力を順にモニターすることができます。



## モーションUIメニュー

このモーションUIメニューは、パワーダウン、LED照度調整、F-ボタンのアサイン、ステータスチェック、ファクトリーセッティングのリセットへのダイレクトアクセスが可能です。

モーションUIメニューを開くには、コントロールホイールを長押しします。

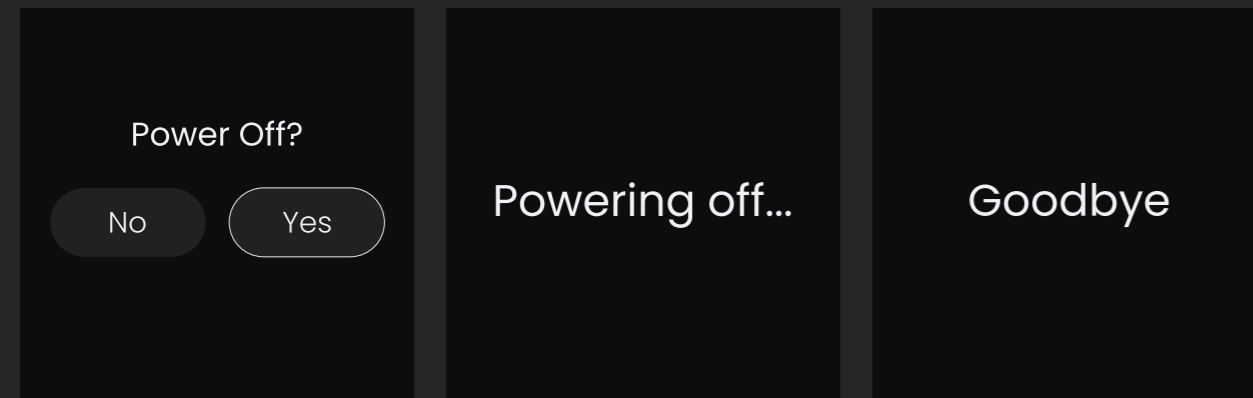


## パワー

EVO 16の電源をオフにする機能です。

Powerが選択されるまでコントロールホイールを回してから押します。

電源をオフにするにはYesを選び、コントロールホイールで確認します。



この機能はEVO 16をスタンバイの状態（低電源消費セッティング）にします。

スクリーンが点灯するまでコントロールホイールを長押しすると、スタンバイからオンに戻ります。

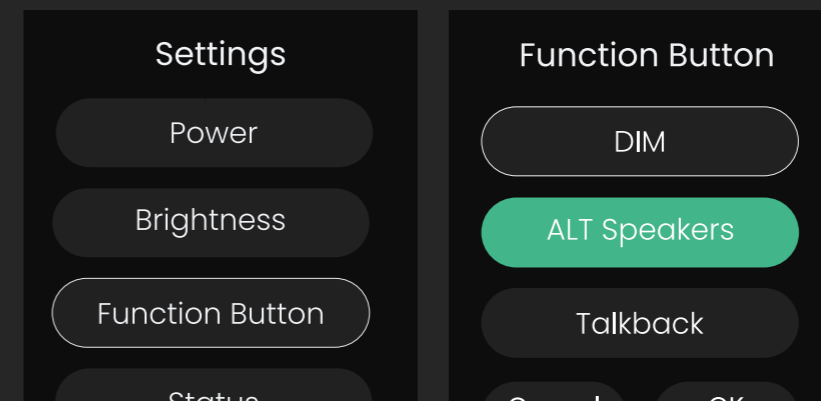
コントロールホイールの5秒間長押しでも、同じように電源をオフにすることができます。

## ファンクションボタン

フロントパネルにあるF-ボタンの機能が選択できます。

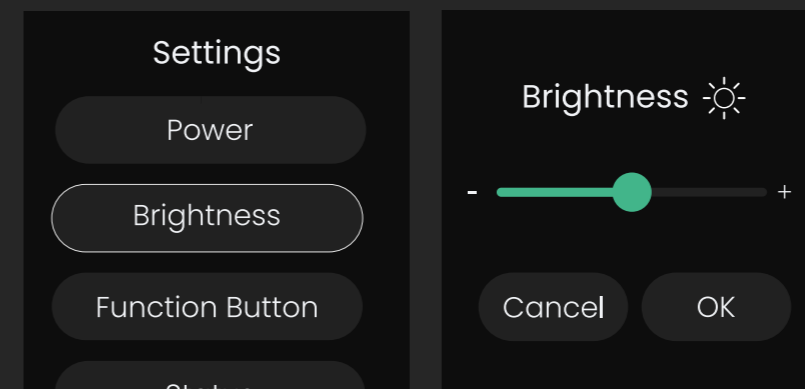
選びたいオプションまでコントロールを回してから押します。

その後、OKを選んで完了です。



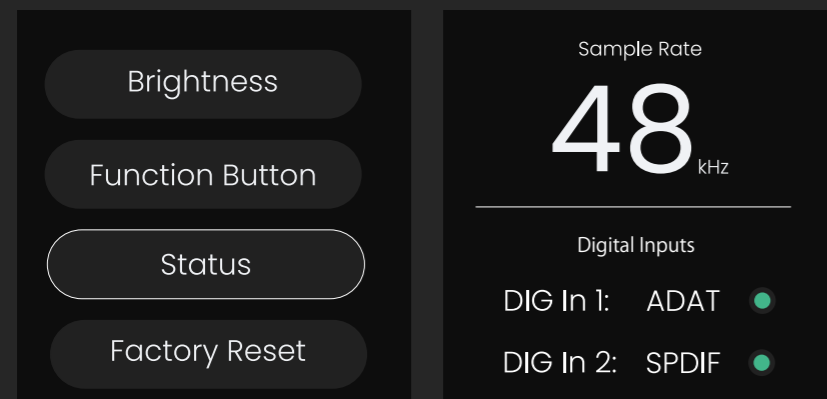
## ブライトネス

LED表示の照度を調整するオプションです。



## ステータス・メニュー・スクリーン

ステータス・スクリーンはEVOミキサーから設定されたサンプルレートを表示します。デジタル入力のプロトコル、クロック同期も表示されます。

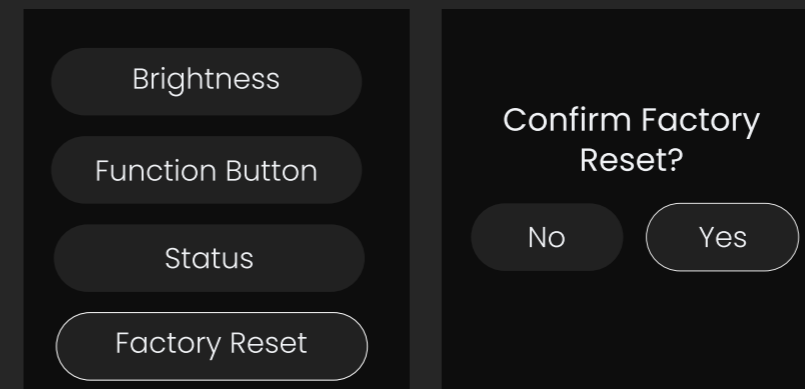


グリーンが表示はクロック同期の成功、アンバーはクロック信号を受けているが異なるサンプルレート、レッドはクロック信号を受けていない状態を表します。表示を終了するにはコントロールホイールを押します。

**Note:** サンプルレートとクロックのセッティングは、このスクリーンから変更はできません。

## ファクトリーリセット

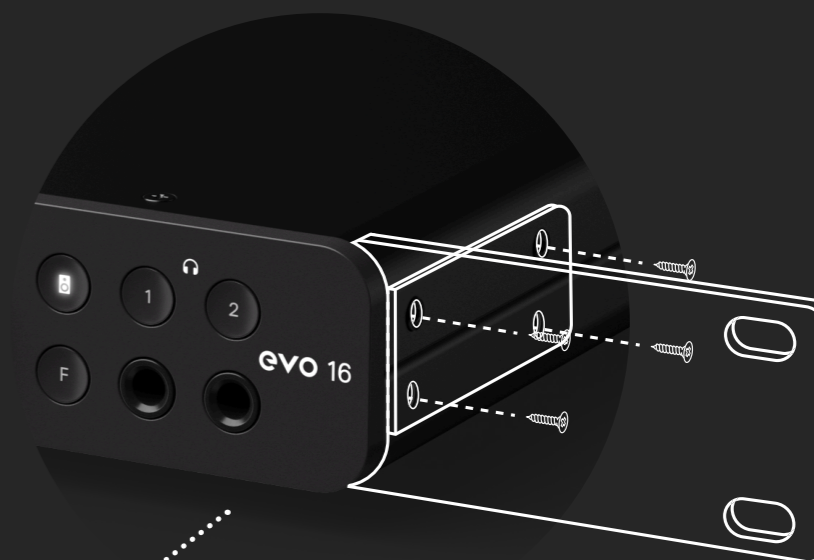
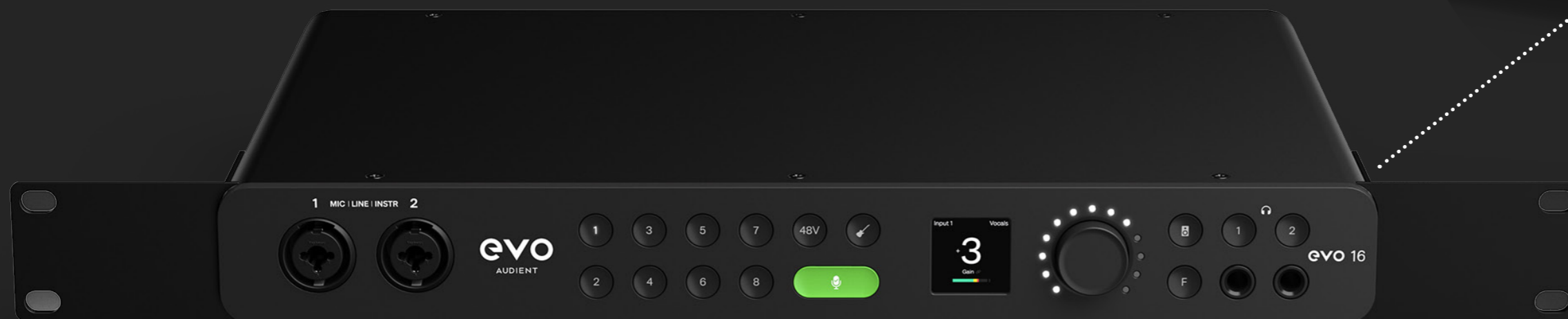
EVO 16のファクトリーセッティングをリセットします。Factory Resetが選択されるまでコントロールホイールを回してから押します。リセットにはYesを選び、コントロールホイールで確認します。



**Note:** このリセットを実行すると、保存した設定が削除されます。

## EVO 16をラックマウントする

EVO 16にはオプションのラック耳が用意されています。  
同梱のスクリューで本体の側面に取り付け可能です。



※ ラックへの取り付けには、  
3mm六角ドライバーが必要です。

### ラックマウント耳の取り付け方法

1. フロントパネルに近いサイドのスクリューを外します。
2. 図のように4本のスクリューで固定します。
3. ラックにマウントする際はスペースを取るゴム足は外しましょう。

※ 取り付けには3mm六角ドライバーが必要です。

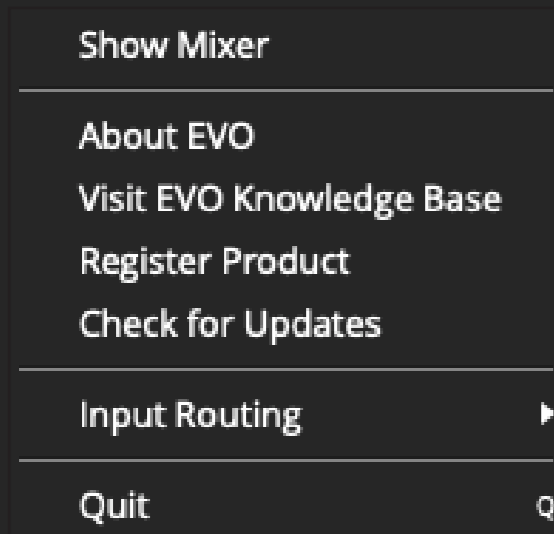
### 取り付け位置の注意

ラック内の上下に熱を発生する機材との隣接は避けて下さい。  
ADAコンバーターの故障の原因になります。  
EVO16のマウントには通気の良い場所を選んでください。



# アプリケーションソフトの特徴

EVO 16には、コンピューターから簡単な操作ができるパワフルなソフトウェアアプリ（モニタリング、オーディオループバック）が含まれています。MacOSでは、このEVOミキサーアプリケーションは、メニューバー（スクリーンの右トップ）から操作できます。



Windowsではシステムトレイ（右下コーナー）から開くことができます。このメニューには次のようなオプションがあります。



メニューから以下のオプションにアクセスできます。:

## Show Mixer

ソフトウェアミキサーウィンドウを開きます。  
ミキサーの詳細な説明はEVO Mixerセクションをご覧ください。

## Quit

このアプリケーションを停止します。

## About EVO

ソフトウェアおよびファームウェアバージョンなどのインフォメーションが表示されます。

## Visit EVO Knowledge Base

ダイレクトにaudientのサポートサイトに繋がり、EVO 16 FAQガイドやヒント集を見ることができます（英語のみ）。

## Register Product - 登録

EVO 16を登録するためのブラウザーが開きます。  
登録すると無料の特典やソフトウェアへのアクセスが可能になります。  
ARCに関する詳細は[12ページ](#)をご覧ください。

## Check for Updates - アップデートの確認

このオプションでは、EVO 16のアップデートリリースが確認できます。  
アップデートがある場合はインストールをお勧めします。

## Input Routing - 入力ルーティング

ループバック入力を送られるチャンネルを選択します。  
ループバックに関する詳細は[63ページ](#)をご覧ください

# EVOソフトウェアミキサー

EVOソフトウェアミキサーは、レコーディング、ミキシング、コンテンツ制作のモニタリングが可能です。



各フェーダーには次の機能があります。:

## Pan Control - パンコントロール

出力信号の左右の定位バランス(パン)を調整します。

## Stereo/Mono - ステレオ / モノ

シンセやステレオマイクを使用時のステレオレコーディングのような場合に、左右チャンネルをステレオリンクします。

## Solo (S) - ソロ

選択されたチャンネル以外は全てミュートされます。

## Mute (M) - ミュート

トラックがミュートされます。

## Meter - メーター

チャンネルのインプットレベルを表示します。信号が大きすぎると、クリッピングを示す赤いインジケーターが表示されます。その場合はレコーディングソフトウェア内のインプット、または音量を調整する必要があります。

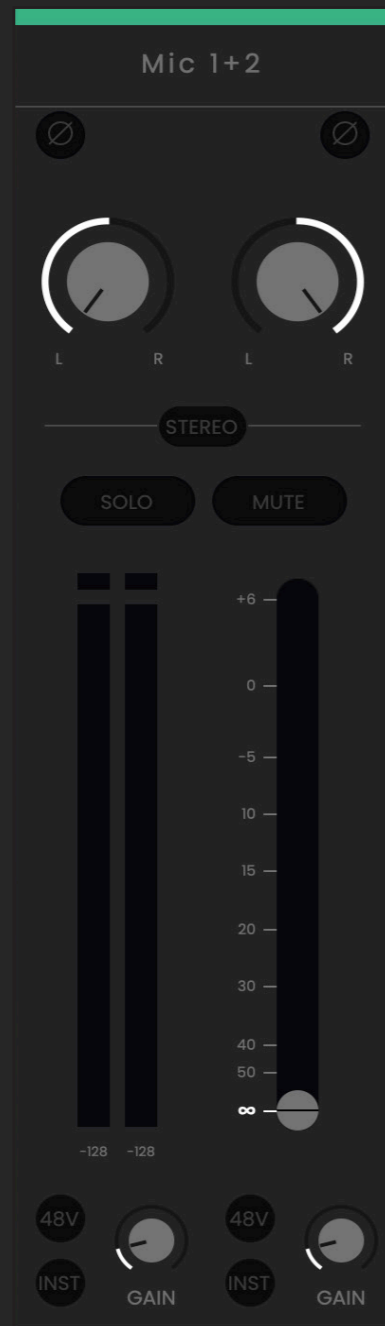
## Phase Flip - 位相反転

信号の位相を180°反転させます。  
この機能はギターアンプのリアサイドやスネアの逆サイドのマイキングに使用します。

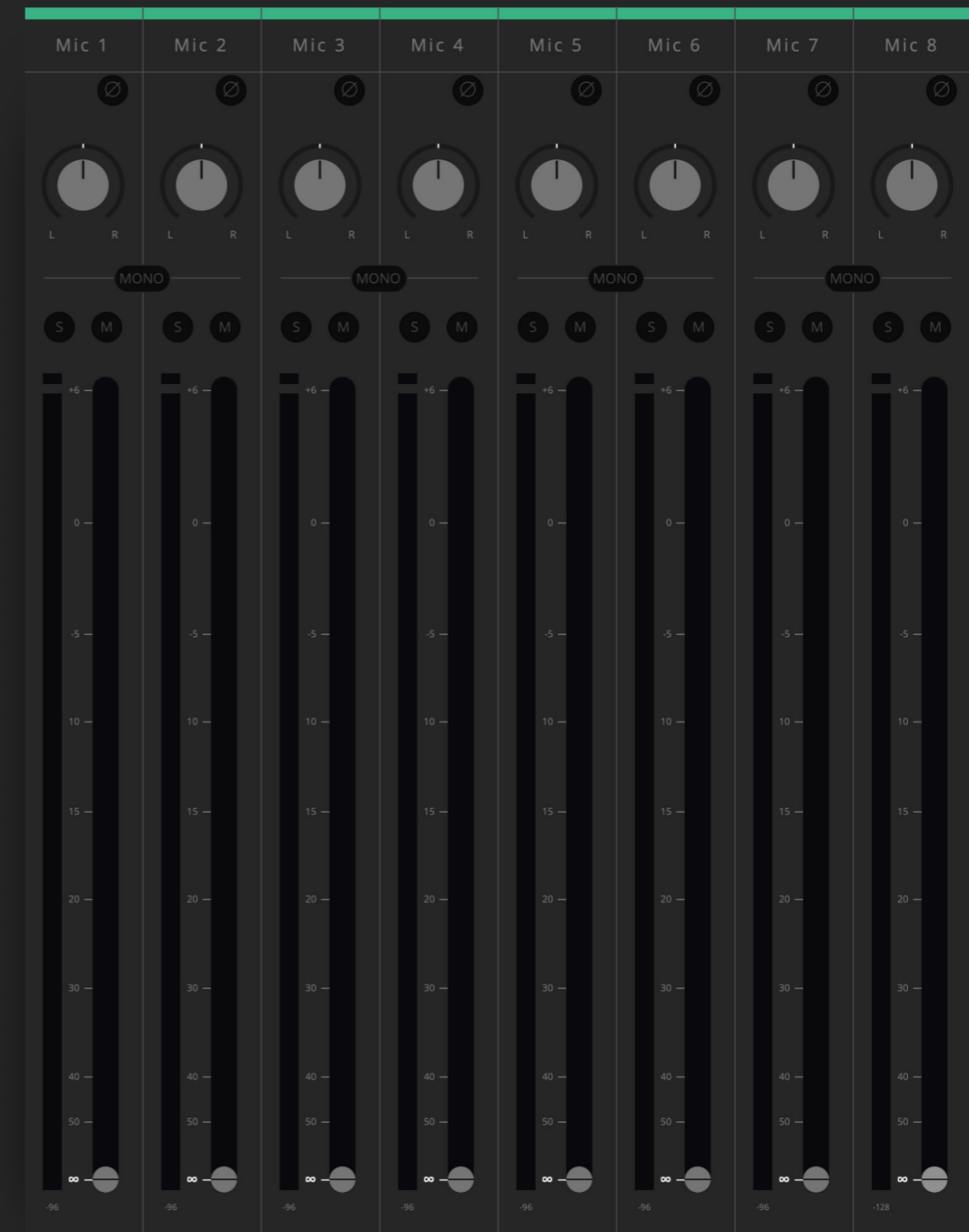
## Faders - フェーダー

出力への信号量を調整します。レベル範囲は $-\infty \sim +6\text{dB}$ です。ミキサーの各チャンネルには異なるソースが入力されます。

それらの異なるチャンネルを以下で紹介します。:



SOFTWARE



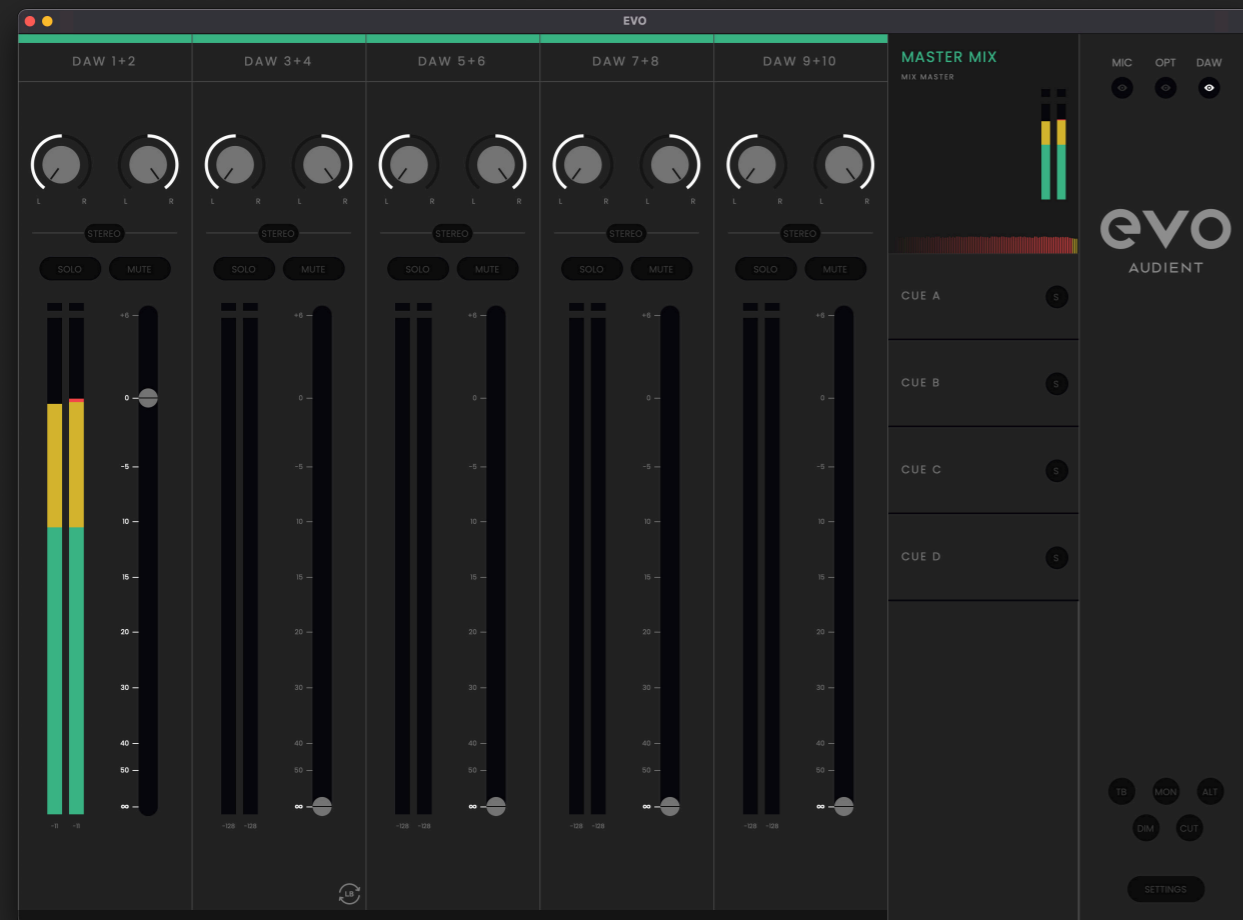
SOFTWARE

### Mic 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7 & 8

これらのチャンネルフェーダーを上げると、8個のマイク入力が、接続されているスピーカーやヘッドフォンからモニターできます。

## DAW 1+2, 3+4, 5+6, 7+8

ミキサーの右端にマスターセクションがあります。  
本機リアにある1+2、3+4、5+6、7+8の出力レベルがここで調整できます。



レコーディングや楽器など、DAWからの（コンピューターからの）プレイバックです。  
フェーダーを上げるとEVO 16を通してプレイバックできます。

EVO 16ソフトウェアミキサーには、複数のCueミックスや外部機器へのセンドがセットできる8 DAW Returnチャンネルがあります。3つのチャンネルスタイルを用いて、メインモニターミックスや4つのCueミックスがセットアップできます。このEVO 16ソフトウェアミキサーはEVO 16のモニタリングのみを行います。

EVO 16ソフトウェアミキサーでの変更は、DAWや他のオーディオソフトウェアのレベルには影響を与えません。

## Digital Inputs - デジタル入力

本機には複数のオプティカル入力があります。  
EVOミキサーアプリにデジタル入力のタイプ（S/PDIFまたはADAT）とサンプルレートが表示されます。

## Master Section - マスターセクション

変更したいミックスをクリックすると、そのミックスが変更できます。  
ミックスが選ばれると、追加コントロールが現れます。



## Cue Mix Name - Cueミックスネーム

ダブルクリックすると、Cueミックスの名前を変更できます。  
例えばバンドメンバー毎にCueミックスを作成した場合、「ギタリスト」「ドラマー」など個別に名前を付けることができます。

## Mix Solo - ミックスソロ

Soloボタンが選択されると、各Cueミックスのみがモニターできます。

## Mix Level - ミックスレベル

出力へ送られるCueミックスの信号レベルがコントロールできます。

## Mix Meters - ミックスメーター

選択されたミックスの信号レベルを表示します。

## Channel Views - チャンネルビュー

3つのチャンネルタイプがボタンで選べます。  
例えば、デジタル入出力を使用していない場合はOPTICALをクリックすると、「デジタル入力」がミキサー上から消えます。

## Monitor Controls - モニターコントロール

これら5つのボタンは、EVO 16モニターコントローラーの異なる機能を選択できます。:

### TB (Talkback) - トークバック

トークバックのオン/オフを行います。  
トークバックの異なるセッティングは、マニュアルの「システムパネル」をご覧ください。

### Mono - モノ

このモノボタンは、ステレオ出力信号をモノ信号に切り替えます。  
この機能は、あらゆる再生条件に対応できるかを簡単に確認できます。

### ALT - オルタネイティブ

複数のモニタースピーカーを接続している場合に、素早く出力先を切り替えることができます。  
「システムパネル」でALTモニター切り替えを設定します。

### Dim - ディム

オンにするとプリセットされた音量分に信号レベルを減衰します。

### Cut - カット

全てのモニター出力への信号がカットされます。  
この機能はEVO 16、F-Key (ファンクション・キー) にアサインするか、またはDim&Cutコントロールで行えます。

## Assigning the F-Button - F-ボタンのアサイン

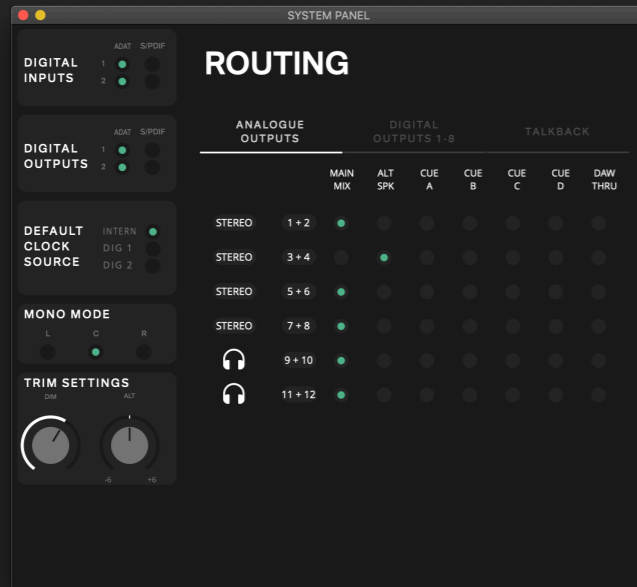
モニタリングを素早くコントロールするEVO 16のファンクション・キーが、EVO Software Mixerにアサインできます。モニターコントロールをF-Button (F-ボタン) にアサインするには、右クリックしてF-ボタンを選択します。





## システムパネル

システムパネルは、メニューまたは‘Settings’を押してアクセスできます。



## デジタル入力/アナログ入力

各デジタル入出力 (ADATまたはS/PDIF) のフォーマットを設定します。

## デフォルト・クロック・ソース

クロックのソースを「内部クロック (INTERNAL)」または「外部クロック (OPTICAL)」から選択します。詳しい内容はこのマニュアルのクロックセクションで説明しています。外部クロックを使用している場合は、クロックインのステータスをインジケータで表示します。

- **Red** - クロック信号が認識できない。
- **Amber** - クロック信号を認識しているが、サンプルレートが一致していない。
- **Green** - サンプルレートが一致し、正常な同期が確立されている。

外部クロックが正しく動作するには、この表示がグリーン点灯していることが必要です。グリーン表示でない場合は、EVO 16は正しいクロックを受けるまでデフォルトの内部クロックに切り替わります。

## Mono Mode - モノモード

このモードではモノ信号がL、R、または両チャンネルのスピーカーに送られます。

## Dim Level - ディムレベル

Dimボタンが押されたときの減衰レベルを設定します。

## ALT Speaker Trim - ALT スピーカートリム

ALTで切り替えられた時の出力レベルを設定します。異なるメーカーのスピーカー間のレベル調整を行います。

## Output Routing Selection - 出カルーティング

アナログ出力、デジタル出力1、デジタル出力2またはトークバックチャンネルへルーティングするマトリクスを開きます。

## Routing Matrix - ルーティングマトリクス

EVO 16の出力へ各オーディオソースを選択できるオプション：

- **Main Mix (メインミックス)** - EVOソフトウェアミキサーのマスターミックスから信号を出力します。これがスタンダードなプレイバック設定です。
- **ALT (オルタネイティブ)** - ALTスピーカーが選択されている時だけマスターミックスから信号を出力します。
- **Cue A, B, C, D** - EVOソフトウェアミキサーで作った4つのcueミックスから出力できます。



Main MixerウィンドウでCue Mixが選ばれると、それぞれトリムによってレベル調整を行います。本体のボリュームコントロールはそれらのミックスレベル操作には関係ありません。

- **DAW THRU** - DAWからの信号をそのまま出力にルーティングできるオプションです。例えば、アナログ出力1+2をDAW THRUへルーティングすると、あなたのDAW→出力1+2はダイレクトにアナログ出力へ送られます。

このオプションは、DAW出力からいくつかのソースをデジタル出力へダイレクトに送ることができますし、オプティカル出力経由で外部機器へ信号を送ることも可能です。

**例:** デジタル出力1+2→DAW THRUにすると、指定したDAWチャンネルのソースをダイレクトに送り再生できます。(出力9+10、1-8はアナログ出力です。) デジタル出力3+4は出力11+12になります。

**DAW THRU使用の注意点:** この設定はボリュームコントロールをバイパスし、フルスケールの信号を出力へ送ります。スピーカー再生する際は出力からインラインのアッテネートを推奨します。(スピーカー再生が大音量になり、モニタースピーカーを損傷する恐れがあります。) DAW THRUはヘッドフォン出力へのアサインはできません。

	ANALOGUE OUTPUTS		DIGITAL OUTPUTS 1-8				TALKBACK	
		MAIN MIX	ALT SPK	CUE A	CUE B	CUE C	CUE D	DAW THRU
STEREO	1 + 2	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
STEREO	3 + 4	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
STEREO	5 + 6	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
STEREO	7 + 8	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	9 + 10	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	11 + 12	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

## トークバックソース

トークバックソースは、EVO16内の信号の1つ、またはホストコンピューターに接続されている機器(内蔵マイク、USBマイク)をトークバック入力へソースとしてフィードできます。

1つの入力をトークバックチャンネルに選ぶと、EVOソフトウェアミキサーのチャンネルストリップは、センターにTBボタンがあるトークバックチャンネルに変わります。外部機器を使う場合は、トークバック信号はチャンネルDAW 10に現れます。フェーダーはMain Mixではなく、Cue Mixのチャンネルに現れます。

## トークバックデバイス

外部機器が選択されると、図のように使用デバイスが選べます。

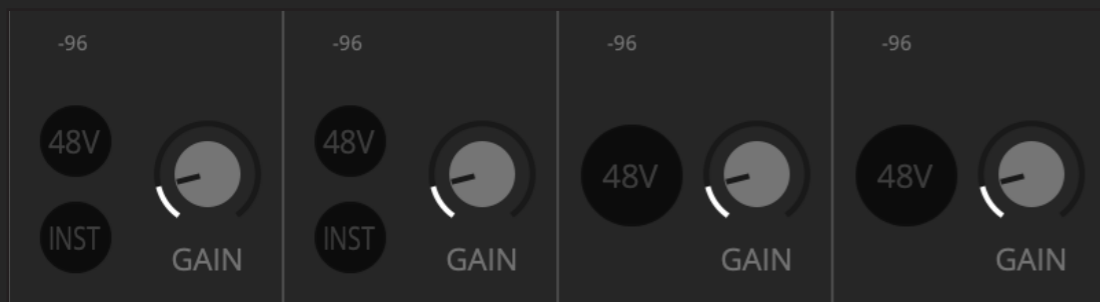


## 高度な機能

### マイクプリアンプコントロール

EVO 16のマイクプリは、EVOソフトウェアミキサーからリモートコントロールが可能です。その方法は、“View”メニューへ行き “Show Mic Pre Controls”にアクセスします。

これが開かれると、各チャンネルの下にゲインコントロールと+48vボタンが確認できます。



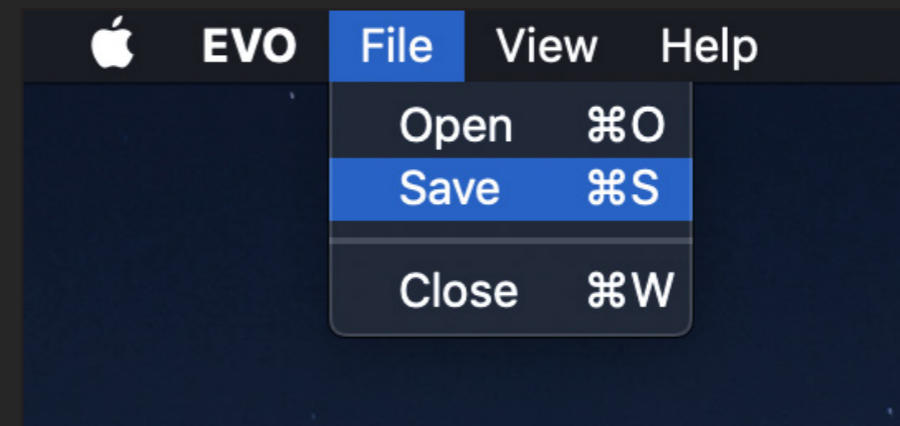
+48vボタンはファンタム電源を、GAINはEVO 16のゲインをコントロールできます。この機能は、忙しいセッション中にコンピューターから離れずに設定変更が可能になります。

File	View	Setup	Help
	✓ Show Analogue Inputs		⌘ 1
	✓ Show Digital Inputs		⌘ 2
	✓ Show DAW Returns		⌘ 3
	✓ Show Mic Pre Controls		⌘ 5
	Show System Panel		⌘ 4

### EVO設定の保存と開封

再度使いたい設定がある場合は、プリセットとして保存できます。EVO 16は保存した設定をスピーディーにリコールすることができます。

設定の保存は図のようにFile→Saveで行います。



設定に名前をつけてSaveをクリックします。他のコンピューターまたは他のEVO 16ユーザーへ設定を送りたい場合は、'Export Mixer Setting to File'をクリックして、ファイルを保存します。



以前に保存した設定を開く場合は、File > Openに進みリストから選びます。



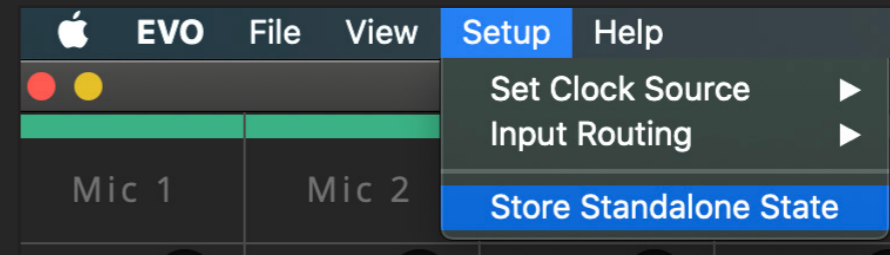
また、以前に保存した設定を削除したい場合は、隣にある'X'をクリックします。

ドキュメントの中からEVO 16設定を開きたい場合は、'Load From File'をクリックしてロードしたいファイルを有効にします。

## スタンドアロンの使用法

EVO 16はホストコンピューターに接続しない状態での使用が可能です。このスタンドアロンの使用法は、リモートでの複雑なトラッキングなどに最適です。スタンドアローンモードの設定はEVO ソフトウェアミキサーで行います。システムパネル (System panel ) 中のdigital I/O、output routings、talkbackが本体に保存できます。

**設定方法:** コンピューターに接続し、システムパネル内のデジタル入出力、出カルーティング、トークバックの設定も反映されます。メニューの「Setup」「Store Standalone State」をクリックすると、その設定がEVO 16本体に保存されます。

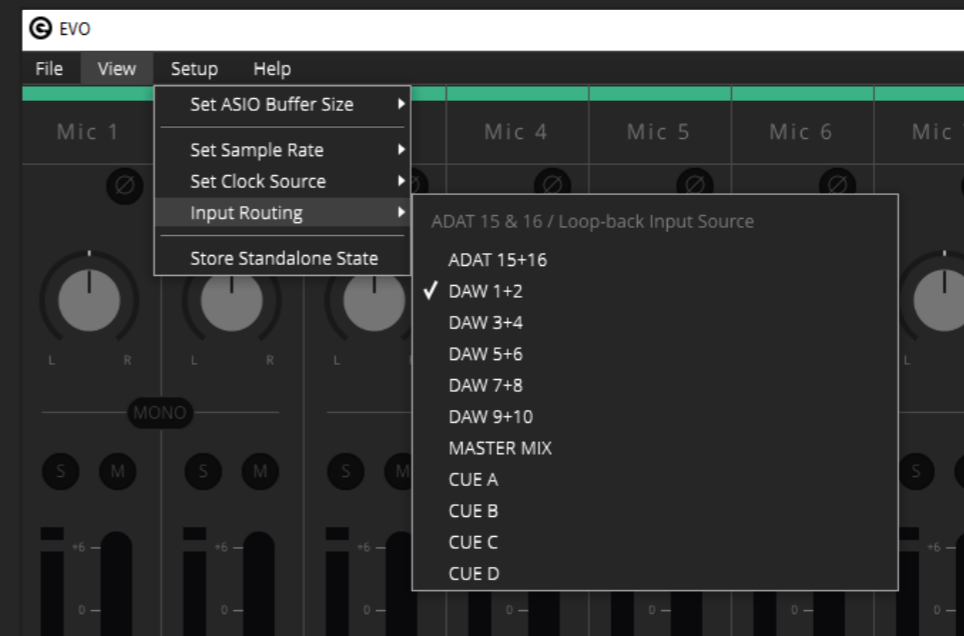


## ループバック機能

マイクからの入力とコンピューターアプリのサウンドを同時に録音する際に、ループバック機能を使用することができます。ビデオインタビューの録音やゲームストリーム配信時、BGMを流しながら話したい時にも便利です。この機能は出力から入力へ信号を戻すバーチャルケーブルとして働きます。

### ループバックソースを選択する

まず、どのEVO 16出力をループバックソースにするかを選択します。'Setup >Input Routing'で行います。:



各ソースの取り込み内訳です。:

**DAW 1+2** - オーディオソースをoutputs (出力) 1+2へ送る

**DAW 3+4** - オーディオソースをoutputs (出力) 3+4へ送る

**DAW 5+6** - オーディオソースをoutputs (出力) 5+6へ送る

**DAW 7+8** - オーディオソースをoutputs (出力) 7+8へ送る

**DAW 9+10** - オーディオソースをoutputs (出力) 9+10へ送る

**Master Mix** - Main Mix パネルのEVO mixerでミックスされたオーディオ

**Cue A** - CUE A パネルのEVO mixerでミックスされたオーディオ

**Cue B** - CUE B パネルのEVO mixerでミックスされたオーディオ

**Cue C** - CUE C パネルのEVO mixerでミックスされたオーディオ

**Cue D** - CUE D パネルのEVO mixerでミックスされたオーディオ

**ヒント:** 1つのステレオ入力のみしか使えないストリーミングアプリの場合、マスターかCueミックスに各ソース (マイク入力、デジタル入力、DAWチャンネル等) からステレオフィールド素材にすると良いでしょう。先のセクションのMain&Cue Mixesを参考にしてください。

## ループバックチャンネルの

## レコーディング/ストリーミング

ループバックソースを選択したら、EVO 16のループバックチャンネルからキャプチャーするオーディオをレコーディング/ストリーミングソフトでセットアップします。ループバックチャンネルはChannels 23-24に現れます。

例えば、DAW 使用時にInput 23-24の信号を新たなステレオトラックにレコーディングする場合、レコードを押すとループバックソースが選択され、そこにあるオーディオが録音されます。

OBSやZoomなどのストリーミングアプリでも、入力デバイスをEVO 16 channel 23-24にセットします。(全てのアプリがchannel 23-24対応ではありません。その設定ができないアプリではループバック機能は使えません。)

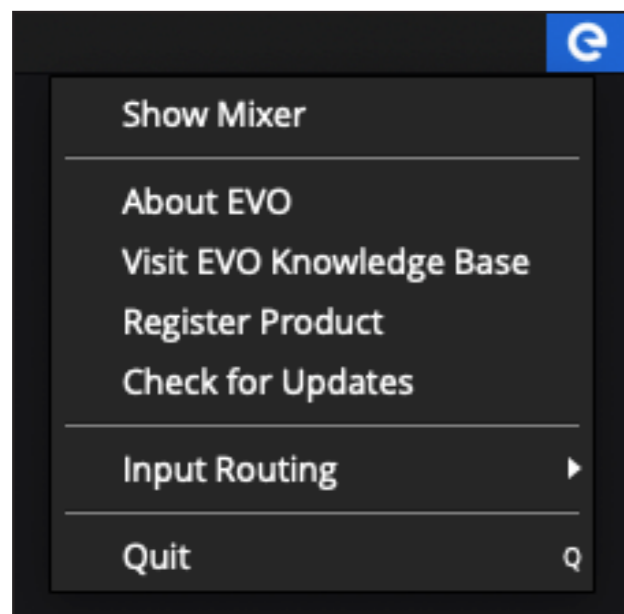


選択したループバックソースは、図のようなアイコンで表示されます。



## ファームウェアのアップデート

機能の追加やバグ修正のために、ファームウェアのアップデートを行う場合があります。定期的にファームウェアの更新状況をチェックすることをお勧めします。



ホストコンピューターをインターネットに接続して、EVO Application Menuに行き'Check for Updates'へアクセスします。

EVO16のファームウェアアップデートを確認して、直接アップデートすることができます。このプロセスは1分程度で完了します。その際は、接続されているモニタースピーカー等の電源を切って下さい。アップデート中に本機は何度かリスタートされます。

ファームウェアのアップデート方法は2通りあります。





# スペシフィケーション

## マイクプリアンプ

マイクゲインレンジ:	58 dB
ラインゲインレンジ:	58dB with -10dB Pad
ファンタム電源:	48v +/-4v @ 10mA/Channel
CMRR (同相信号除去比):	>80dB @ 1kHz
最大入力レベル:	+16dBu
入力インピーダンス (Mic):	>3kΩ Balanced
入力インピーダンス (Line):	>10kΩ Balanced
周波数特性:	+/-0.5dB 10Hz to 40kHz
クロストーク:	<-105dBu @ 1kHz <-103 @ 10kHz
THD+N @ 0dBu (1kHz):	<0.0015%
SNR:	100dB
Mic EIN (等価入力雑音):	<-127.5dBu

XLR: Pin 2 (Hot), Pin 3 (Cold) & Pin 1 (Shield)

1/4" ジャック: TIP (Hot), RING (Cold) & SLEEVE (Shield)

## D.I:

D.I ゲインレンジ:	58dB
最大入力レベル:	+10dBu
入力インピーダンス:	500kΩ
THD+N @ 0dBu (1kHz):	<0.1%
SNR:	100dB
周波数特性:	+/-0.5dB 10Hz to 20kHz
1/4" ジャック:	TIP (Hot) & SLEEVE (Shield)

## ADコンバーター (アナログ to デジタル)

デジタルリファレンスレベル:	0dBFS = +10.5dBu
周波数特性:	+/-0.5dB 10Hz to Fs/2
クロストーク:	-125dBu @ 1kHz & 10kHz
THD+N @ -1dBFS (1kHz):	<0.001%
ダイナミックレンジ:	112.5dB A-Weighted

## DAコンバーター (デジタル to アナログ)

最大出力レベル:	12dBu
デジタルリファレンスレベル:	0dBFS = +12dBu
出力インピーダンス:	<50Ω
周波数特性:	+/-0.5dB 10Hz to Fs/2
クロストーク:	<-110dBu @ 1kHz
THD+N @ -1dBFS (1kHz):	<0.001%
ダイナミックレンジ:	121dB A-weighted
1/4" ジャック:	TIP (Hot), RING (Cold) & SLEEVE (Shield)

## ヘッドフォン出力

最大出力レベル:	11.25dBu
出力インピーダンス:	<50Ω
周波数特性:	+/-0.5dB 10Hz to Fs/2
クロストーク:	-108dBu @ 1kHz
THD+N @ -1dBFS (1kHz):	<0.001%
ダイナミックレンジ:	118dB A-weighted
最大入力レベル (30 Ω):	+8.5 dBu, 0.00094% THD+N, 1.66Vpk Power: 86mW
最大入力レベル (60 Ω):	10 dBu, 0.00079% THD+N, 2.55Vpk Power: 104mW
最大入力レベル (600 Ω):	11.2 dBu, 0.00057%THD+N, 3.83Vpk Power: 24mW
1/4" ジャック:	TIP (Left), RING (Right) & SLEEVE (Shield)

# 安全上のご注意

- **説明書の確認** - 製品を操作する前に、必ず本注意事項と説明書をお読みください。
- **説明書の保管** - 安全および操作に関する説明書は、後で参照できるように大切に保管してください。
- **注意・警告の確認** - 取扱説明書に記載されているすべての注意・警告をご確認の上、従ってください。
- **指示の確認** - 操作および使用に関しては取扱説明書および本注意事項をご確認の上、従ってください。
- **クリーニング** - 製品をクリーニングする場合、事前にコンセントから電源プラグを抜いてください。液体クリーナーやエアゾール クリーナーは使用せず、乾いた布を使用してください。
- **アタッチメント** - 危険を起す可能性があるため、製品メーカーが推奨していないアタッチメントは使用しないでください。
- **水と湿気** - 製品を水回りで使用しないでください。風呂場、洗面台、台所やその他、湿気が多い場所での使用を避けてください。
- **付属品** - 製品を不安定なカート、スタンド、三脚、棚やテーブルの上に置かないでください。製品が落下してけがをする恐れがあり、製品に損傷を与える可能性があります。製品の設置については説明書を確認するか、メーカーが推奨する取り付けアクセサリを使用してください。
- **換気** - 製品に備えられたスロットや開口部は換気用で、製品から放熱するためのものです。これらの開口部を塞いだり覆ったりしないでください。ベッド、ソファ、じゅうたんなどの上で開口部がふさがれる置き方をしないでください。十分な換気が出来ない場合は、本棚やラックには設置せず、メーカーが推奨する指示に従って適切な場所に設置してください。
- **電源プラグ** - 電源プラグまたは電源接続器を外して電源が抜けるようにしておいてください。
- **電源** - この製品は、製品ラベルに表示されているタイプの電源でしか動作しません。アース線を備えた電源ソケットをコンセントに接続してください。電源の種類がわからない場合は、製品の販売店または地域の電力会社にお問い合わせください。
- **電源コードの保護** - 電源コードは安全な場所に設置してください。プラグのコード、コンセントや製品に接続している個所は、特に踏まれたり何かで挟まれたりしないように配線にご注意ください。
- **落雷** - 製品を守るために、落雷時や長時間使用しない場合には、雷や電圧変化による製品が損傷するのを防ぐため、コンセントからプラグを抜き、ケーブル類を取り外してください。
- **電線** - 屋外アンテナシステムは、頭上の電線やその他の電灯や電気回路の近く、またはそのような電線や電気回路に落ちる可能性がある場所に配置しないでください。屋外アンテナシステムを設置する場合は、電力線や回路に触れないよう特にご注意ください。
- **過負荷** - コンセント、延長コード、または一体型コンセントに許容量以上の負荷をかけないでください。火災や感電の危険があります。
- **発火** - 火のついたろうそくなど発火の恐れがあるものを製品の上に置かないでください。
- **異物や液体** - 液体などが製品の回路内にある危険な電圧個所に触れたり、部品をショートさせたりすると、火災や感電の原因となる可能性があります。異物や液体を製品内に入れないでください。
- **ヘッドフォン** - イヤフォンやヘッドフォンから大音量で音を聴き続けると、難聴の原因となる場合があります。
- **修理が必要な場合** - 以下の状況では、コンセントからこの製品のプラグを抜き、専門のサービス業者に修理を依頼してください。
  - 電源コードまたはプラグが損傷した場合。
  - 液体をこぼした、または製品に物を落として損傷させた場合。
  - 製品が雨水にさらされた場合。
  - 取扱説明書に従っても製品が正常に動作しない場合。※説明書に記載のない不適切な操作をすると、製品の故障につながります。製品を正常に動作させるためには、資格を持った技術者による大がかりな修理が必要になることもあります。
  - 製品が落下または破損した場合。
  - 製品の性能に明らかな変化が見られ、修理サービスが必要な場合。

# 安全上のご注意

- **部品交換** - 部品交換が必要な場合は、正規の部品を使用しているサービス業者にご依頼ください。非正規品の部品交換は、火災、感電、またはその他の危険につながる可能性がありますのでおやめください。
- **バッテリーの廃棄** - 使用済みバッテリーを廃棄する場合は、お住まいの国または地域、環境に関する公共機関の規定に従ってください。
- **安全確認** - 交換サービスや修理が完了したら、サービス業者に安全確認を依頼し、製品が安全かつ正常に動作することを確認してください。

## WARNING - 警告



この三角形に雷の矢印があるマークは、本機の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このエクスクラメーションマークは、注意喚起シンボルです。取扱説明書などに、一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。



WARNING : SHOCK HAZARD - DO NOT OPEN  
ATTENTION : RISQUE DE CHOC ELECTRIQUE-NE PAS OUVRIR

感電の恐れがあります。 ケースをあけないでください。

## 設置に関する注意

換気を保つために、本体の周囲は突起物を含めた外形寸法から、下に示す以上のスペースを確保してください。

左右のパネルから10 cm

リアパネルから10 cm

トップパネルから10 cm

ラジエーター、ヒートレジスター、ストーブ、その他の熱を発生する装置（アンプ等を含む）など熱源の近くに設置しないでください。

分極または接地タイプのプラグの安全にご注意ください。分極プラグには 2 つのブレードがあり、一方のブレードの幅が他方よりも広がっています。接地タイプのプラグには、2 つのブレードと1本の芯があります。幅広のブレードまたは芯は、安全確保のために搭載されています。付属のプラグがコンセントに合わない場合は、コンセント交換について専門家に相談してください。

## FCC規制（北米地域の電波法）

この製品は、FCC規制のPart 15 に従ってテスト済みで、クラス Bのデジタルデバイス基準に準拠しています。この規制は、住宅へ設置することで発生する有害な干渉から守るために取り決められています。この製品は、無線周波数エネルギーを生成、使用、および放射する可能性があり、指示に従って設置および使用しない場合、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。また、ある一定の状況下において干渉が発生しないと保証されるものではありません。製品がラジオやテレビの受信に有害な干渉を引き起こしている場合、次のいずれかの方法で干渉を防ぐことを推奨します。\*干渉の有無は機器の電源ON/OFFでご確認できます。

- 製品と干渉を受けているデバイスの距離をあげてください。
- 干渉を受けているデバイスが接続されている回路とは別回路のコンセントに製品を接続してください。
- 販売店または専門家に相談してください。
- この製品が準拠しているFCC 規定のPart 15 には以下2点の項目が含まれます。
  1. この製品は有害な干渉を引き起こさないこと
  2. この製品は、予期せぬ操作を引き起こす可能性のある干渉を含め、受信した干渉を受けること
- 感電を防ぐため、プラグにある幅広のブレードを幅広のスロットに合わせて、完全に奥まで差し込んでください。（幅広ブレードのプラグを使用する場合）
- アース線を備えた電気製品はアース対応の電源コンセントに接続してください。
- 主電源プラグは切断装置として機能するように、機器の使用中にいつでも抜き差しできる状態にしてください。電源から完全に切り離すには、電源プラグをコンセントから完全に切り離してください。
- タイプや規格を表すラベル類は、製品の背面または底面に貼付されています。

## 品質保証に関して

本機は、audient日本総代理店 オールアクセスインターナショナル株式会社が、購入後1年以内の品質保証を行っております。修理の際は、購入時の保証書（購入期日及び販売店捺印必須）を提示の上、ご購入の販売店に御依頼下さい。保証書の提示が無い場合、保証内であっても1年以内の保証の対象にはなりません。

本書に記載された文章、図版、作品は、全て「著作権」及び、それに付随する「著作隣接権」等の諸権利を保有しています。弊社では内容を理解することを目的とする使用方法のみを許諾しております。

■サービスについて このマニュアルに記載されていない操作や取り扱いは行わないで下さい。記載外の使用法で本機を使用されますと製品不良が発生する場合があります。必ず本書に基づいた使用方法で使用して下さい。

記載外の使用法による破損や修理は、保証期間中の機器であっても保証対象外になります。本体の取り扱いは慎重に行ってください。万が一、負傷された場合でも弊社では一切の責任を負いません。

修理が必要な場合は、購入先もしくは弊社へ（メールのみの対応です。）ご連絡下さい。

Web: [www.allaccess.co.jp](http://www.allaccess.co.jp)

Mail: [audient@allaccess.co.jp](mailto:audient@allaccess.co.jp)

evo  
AUDIENT